

つなぐ つながる
うごきだす

第4回子育て政策懇話会会議資料



尼崎市 総合政策局 政策部 都市政策課

1. 開会

2. これまでの議論の振り返りと今後の検討課題について

3. ファミリー向けアンケートの結果について

＜事務局説明＞

- ① 居住地選択において重視する項目
- ② 転居のきっかけ、理由、自治体間比較の状況
- ③ 結果から得られた考察・・・など

＜構成員からのコメント＞

3. 意見交換・今後の政策の方向性について

4. 振り返り

5. 閉会

つなぐ つながる
うごきだす

これまでの議論の振り返り



子育て政策懇話会での検討状況（第1回～第3回）

【第1回】

(1) 子育て世帯に対する経済的支援について

- ・ 教育費の負担が大きい。コワーキング等の育児と仕事を両立しやすさが重要

(2) こども医療費助成のあり方

- ・ 高校生の助成は転居の動機にはならない。居住地選択には教育の影響が大きい。
- ・ 一方で、自治体間競争もあり、何もしないというのは難しいのではないかな。

(3) その他

- ・ 「子育て家庭を歓迎している」というブランディングが重要。
- ・ 医療費助成のように、近隣自治体との競争分野は引き続き意識が必要。

【第2回】 【第3回】

(1) 多子世帯支援について

(2) ライフステージごとの負担等について

- ・ ライフステージごとの負担や多子世帯への経済支援について議論
→ コワーキングや多子世帯支援を令和8年度予算に計上

子育て政策懇話会での検討状況（今後の進め方）

第3回懇話会の最後に「今後の進め方」を議論

→ 本市の魅力や子育て支援の取組をどうブランディングし発信していくかが課題

本日のテーマは、

- ・ 今後、本市のブランディング（魅力発進の方法）を検討していく
- ・ そのために「ファミリー世帯」の解像度を上げる機会としたい

- ファミリー世帯の移動（転居）のきっかけ・理由
- ファミリー世帯の居住地選択の優先度
- ファミリー世帯の情報収集の方法
- ファミリー世帯が本市と比較する自治体等の状況

をご説明し、意見交換させていただく

つなぐ つながる
うごきだす

ファミリー向けアンケートの結果について



実施概要

アンケートサイト(イメージ)

1. 対象

ファミリー世帯（4歳以下の子どもがいる世帯）

2. 回答者の属性

①市内へ転入	428件（回答率	30.6%）
②市内間転居	431件（回答率	30.8%）
③市外へ転出	248件（回答率	13.8%）
④市内在住	545件（回答率	38.9%）

※ 2/27時点

3. 備考

- ・ 転出者は関西のみ対象
- ・ 外国籍住民は特別永住者のみ対象

尼崎市 住まい選びと子育てについてのアンケート

- ① まず、現在の居住地に転居した時のことについて、お伺いします
- ② 次に、現在の居住地での生活について、お伺いします
- ③ 次に、あなたのお住まいの状況やあなたご自身について、お伺いします
- ④ 最後に、あなたの総合的な幸福度や生活満足度について、お伺いします

問1 現在の居住地に転居したきっかけを教えてください。（複数選択可）

※該当がなければ飛ばしてください

1. ライフイベント関連

- ☐ 結婚・パートナーとの同居のため ☐ 出産・子どもが増えたため ☐ 子どもの成長により手狭になったため
- ☐ 親・親族との同居・近居のため ☐ その他、家族構成に関する変更のため

2. 仕事・学業関連

- ☐ 自分または同居人の就職・転職・転勤 ☐ 起業や事業のため ☐ 通勤時間を短縮するため
- ☐ （将来を見越して）子どもの進学・通学の利便性を高めるため

3. 住宅関連

- ☐ 住宅を購入・取得したため ☐ 賃貸契約の更新・終了に伴う転居 ☐ より広い・間取りの良い住宅を求めて
- ☐ より新しい・設備の整った住宅を求めて ☐ 家賃・住宅費の負担を軽減するため

アンケート回収状況

アンケート回答数

種別	送付数 ㊦	回答数		回収率 ㊦/㊦
		㊦	構成比	
①市内への転入世帯	1,400	428	23.3%	30.57%
②市内間の転居世帯	1,400	431	23.3%	30.79%
③市外への転出世帯	1,800	248	30.0%	13.78%
④市内に在住の世帯	1,400	545	23.3%	38.93%

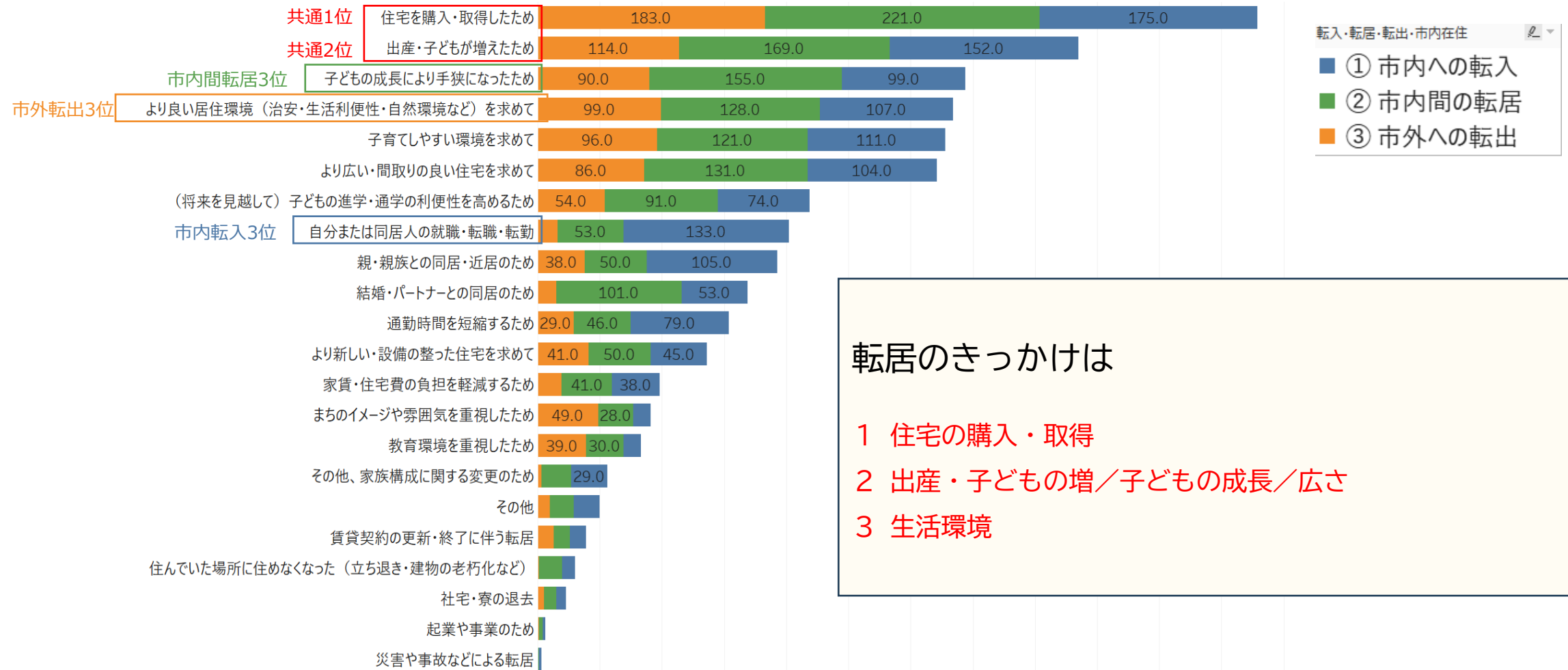
アンケート回答者属性

年代	①市内への 転入	②市内間の 転居	③市外への 転出	④市内の 在住	判別 不可	合計
20代	46	62	23	14	2	147
30代	284	269	173	333	6	1065
40代	72	83	42	172	3	372
50代	6	5	3	10		24
60代	2			2		4
年齢 不明	18	12	7	14	10	61
合計	428	431	248	545	21	1673

問1-1 現在の居住地に転居したきっかけ

- 転居のきっかけは、全属性共通で1位が「住宅の購入・取得」、2位が「出産・子どもの増加」となった。
- 一方で3位は属性ごとに傾向が異なり、市内転入は「自分または同居人の就職・転職・転勤」、市内間転居は「子どもの成長により手狭になった」、市外転出は「より良い居住環境（治安・生活利便性・自然環境など）を求めて」と割れる結果となった。

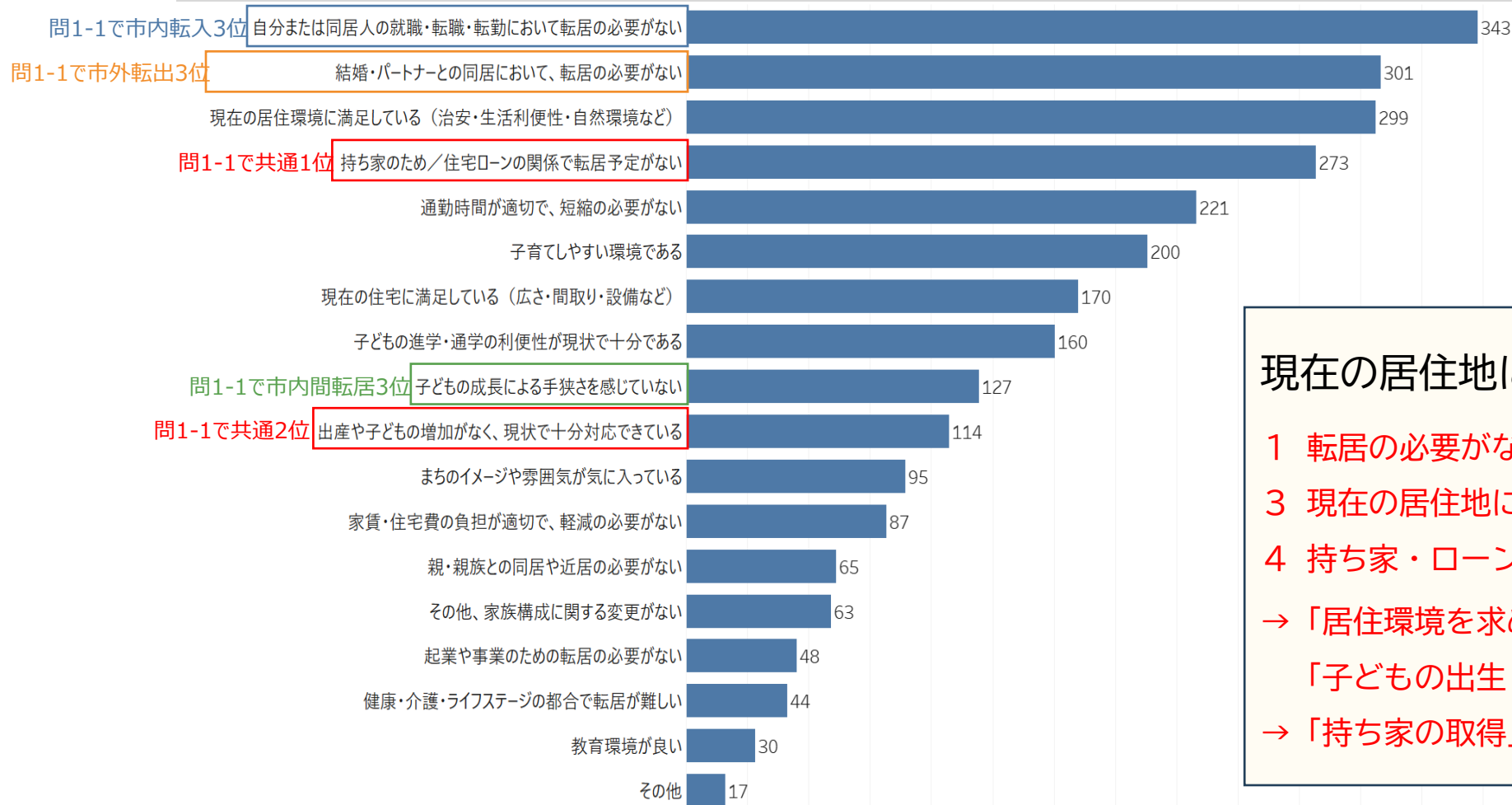
Q1-1.現在の居住地に転居したきっかけを教えてください。



問1-2 現在の居住地に住み続けている主な理由

- 問1-1で転居のきっかけとなった上位1～3位の理由のうち、「就職・転職・転居」「居住環境」「住宅の購入・取得」が1位・2位・4位となった一方で、「子どもの成長による手狭さ」「出産・子どもの増加」は中位に位置していることから、家族構成の変化は事象が生じてから転居のトリガーとしての重みが増すことがうかがえる。

Q1-2.現在の居住地に住み続けている主な理由を教えてください。



現在の居住地に住み続ける理由

1 転居の必要がない（2位も同趣旨）

3 現在の居住地に満足している

4 持ち家・ローンのため

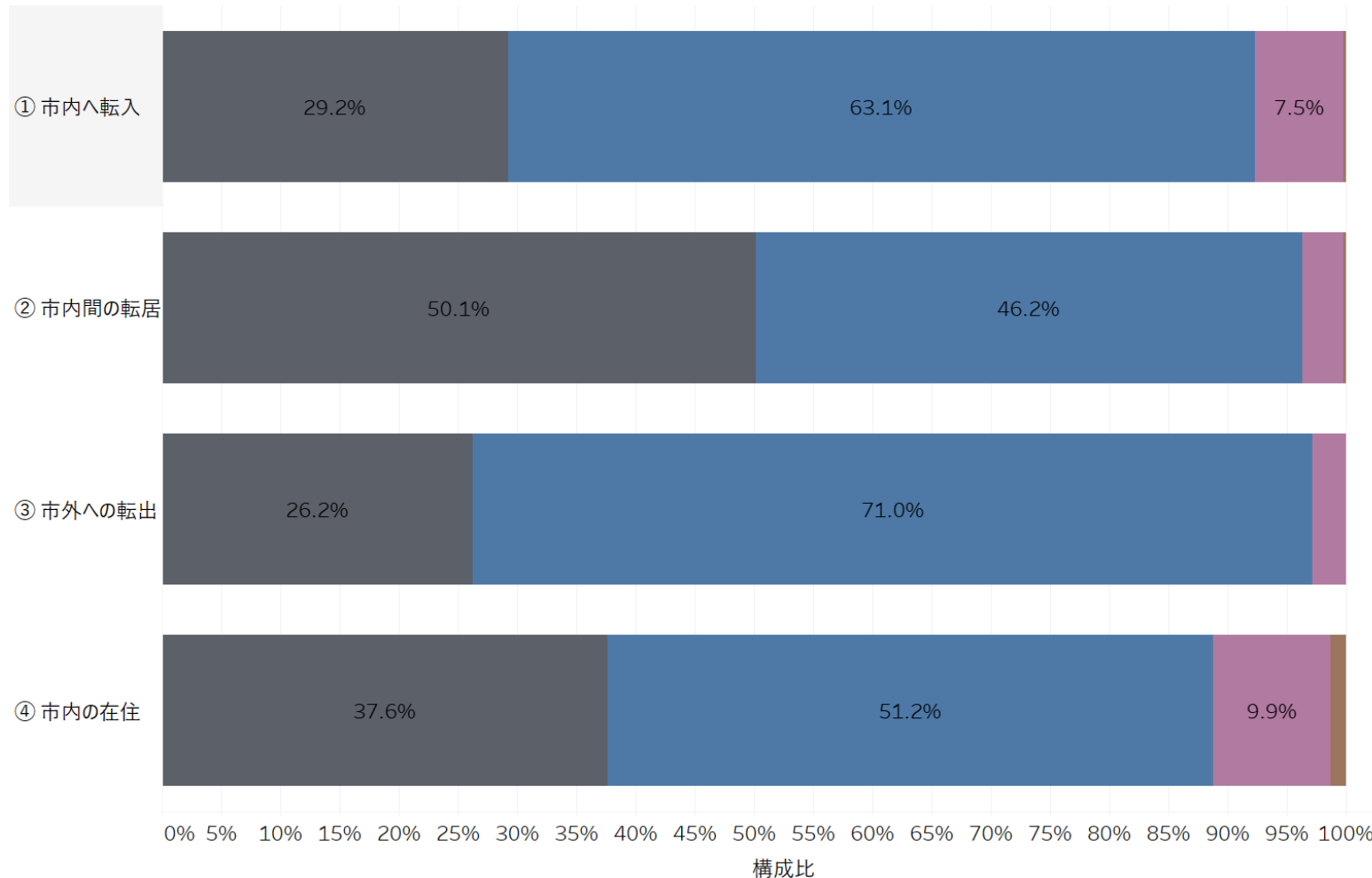
→「居住環境を求めて引っ越す」が、そのきっかけは
「子どもの出生・成長」が一定見られる

→「持ち家の取得」が転出の抑止になる可能性

問3 現在の居住自治体以外を検討したか

- 市内転入においては、6割が比較検討のうえで尼崎市を選択している。市外転出についてはこの割合は7割となっている。
- 一方で市内間転居では、半数が尼崎市以外を比較検討しなかったことから、この層は問1と合わせて「出産や子どもの増加」
- 「子どもの成長」により転居はするが、環境変化の少ない市内間転居を最初から志向していることがうかがえる。

Q3.現在の居住自治体以外を検討しましたか。



Q3.現在の居住自治体以外を検討しましたか。

- 転居自体を検討していなかった..
- その他 (仕事の都合や親との同..
- 検討した結果、現在の居住自..
- 検討しなかった

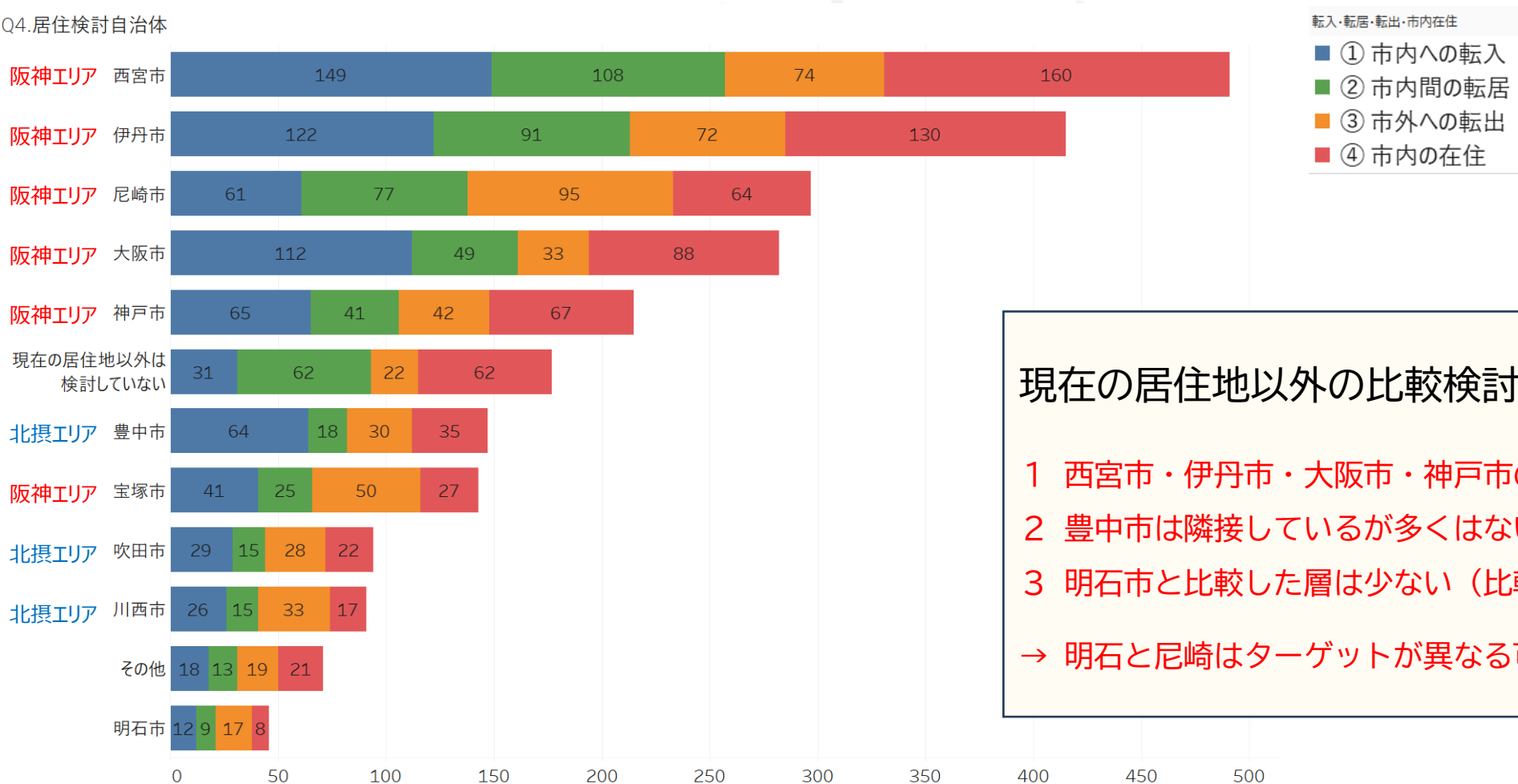
現在の居住地以外の検討

- 1 市外転出は7割が検討
 - 2 市内転入の6割が他市を検討し、本市を選択
- 本市は一定の競争力を有し、選ばれている

問4 現在の居住地以外に検討した自治体

- 若干の順位の入れ替わりはあるものの、全属性で西宮市・伊丹市・大阪市・神戸市が多く比較検討されている。
- 一方で、豊中市・川西市・吹田市といった北摂エリアと宝塚市は比較検討対象としては低調であった。
- なお、播磨エリアで人口が増加している明石市はほとんど比較されていない。

Q4.居住検討自治体



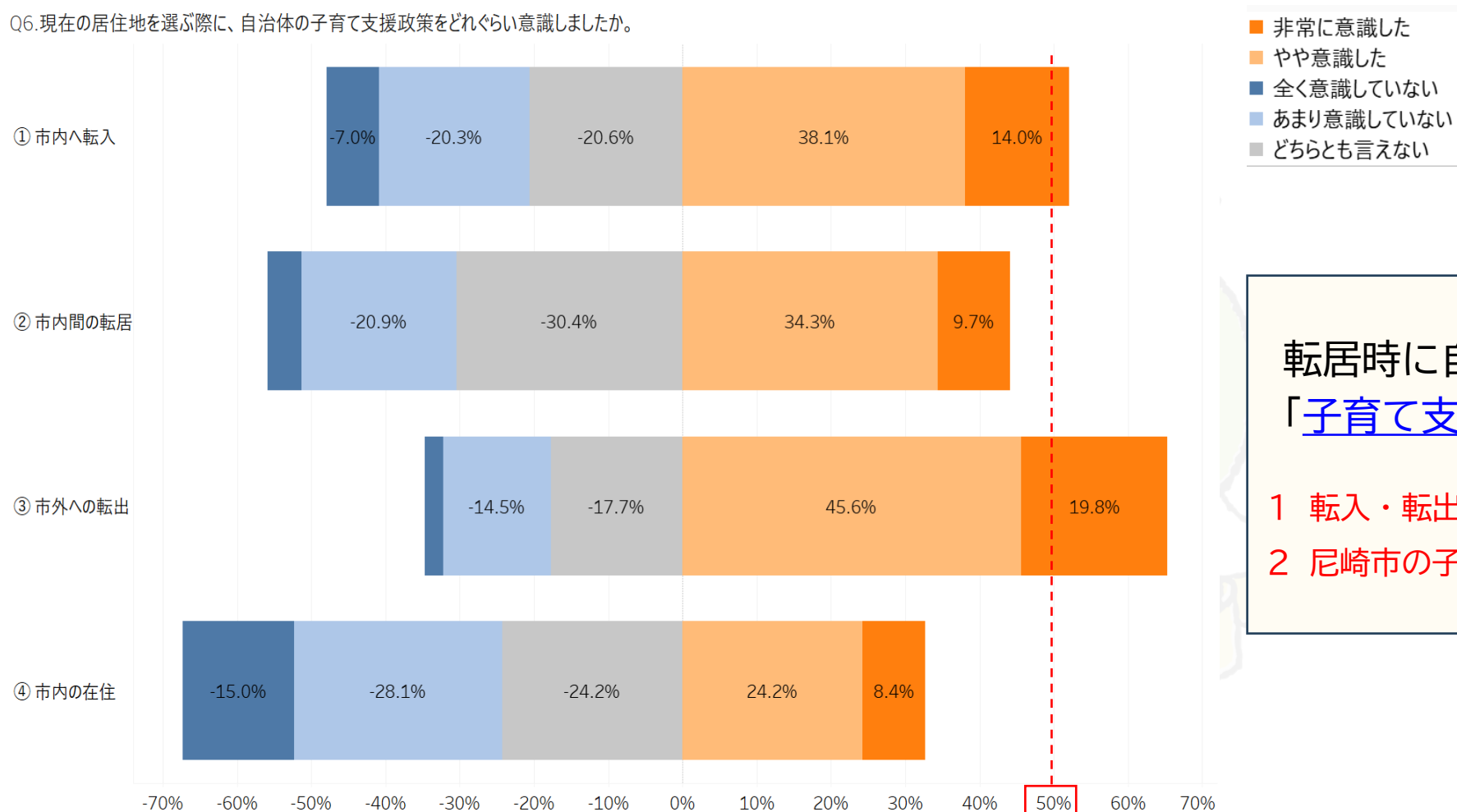
現在の居住地以外の比較検討対象

- 1 西宮市・伊丹市・大阪市・神戸市の順
 - 2 豊中市は隣接しているが多くはない
 - 3 明石市と比較した層は少ない（比較対象ではない）
- 明石と尼崎はターゲットが異なる可能性

問6 現在の居住地選択時に、子育て支援政策をどの程度意識したか

- 市内転入の5割強、市外転出の6割強が自治体の子育て支援政策を「非常に意識」「やや意識」していることから、転出入において自治体の子育て支援政策は半数以上の住民にとって意識されるものであると言える。

Q6.現在の居住地を選ぶ際に、自治体の子育て支援政策をどれくらい意識しましたか。



転居時に自治体の
「子育て支援政策」を意識したか

- 1 転入・転出ともに5割超が「意識した」
- 2 尼崎市の子育て支援策は一定意識されている

問5 現在の居住地を決める際に重視した条件

- 居住地選びで重視する条件は①～④共通で、「住宅（住居）」「立地・アクセス」の生活基盤に直結する項目が相対的に高い

つながり

【修正2】Q5 (3)

条件	①市内への転入		②市内間の転居		③市外への転出		④市内の在住	
	c.Must採用割合	c.Want採用割合	c.Must採用割合	c.Want採用割合	c.Must採用割合	c.Want採用割合	c.Must採用割合	c.Want採用割合
住居	3.755	0.065	3.889	0.081	3.415	0.129	3.402	0.149
立地・アクセス	3.699	0.210	3.613	0.142	3.355	0.395	4.048	0.066
買物・飲食	1.350	0.320	1.575	0.239	1.165	0.524	1.712	0.228
子育て支援・保育サービス	0.757	0.776	0.754	0.698	0.919	0.710	0.633	0.677
医療・福祉	0.600	0.231	0.694	0.227	0.448	0.411	0.772	0.240
教育環境	0.435	0.509	0.573	0.374	0.790	0.234	0.371	0.578
事故・犯罪	0.432	0.558	0.378	0.573	0.726	0.105	0.501	0.681
自然災害	0.346	0.381	0.309	0.471	0.601	0.270	0.294	0.371
コミュニティ・地域とのつながり	0.264	0.140	0.329	0.137	0.278	0.169	0.194	0.086
公共空間	0.248	0.294	0.320	0.158	0.306	0.222	0.292	0.306
遊び・娯楽	0.229	0.367	0.227	0.360	0.173	0.702	0.341	0.385
まちの将来性・発展性・資産価値	0.229	0.194	0.223	0.246	0.343	0.282	0.226	0.275
都市景観	0.136	0.236	0.093	0.378	0.258	0.190	0.172	0.295
雇用・働き方	0.091	0.164	0.053	0.135	0.012	0.181	0.160	0.119
文化・イメージ	0.065	0.157	0.035	0.104	0.181		0.066	0.220
行政制度・行政サービス	0.063	0.185	0.035	0.211	0.012	0.238	0.028	0.261
自然景観	0.044	0.357	0.130	0.309	0.218	0.298	0.125	0.505
通信インフラ・デジタル化	0.019	0.084	0.019	0.060	0.028	0.052	0.022	0.070
多様性と寛容性	0.016	0.033	0.005	0.026		0.036	0.006	0.037
自然の恵み	0.016	0.278	0.039	0.285	0.117	0.226	0.022	0.413



居住地選択で重視した項目

【マスト項目】

- 1 住居 (広さ・費用など)
 - 2 立地・アクセス (通勤時間等)
- 全ての属性で1位・2位

【ウォント項目】

- 1 子育て支援・保育サービス
- 2 教育環境
- 3 事故・犯罪 → 市内在住者で上位

各属性ごとの絶対条件/必要条件の回答割合



選択種別

■ 未選択人数
■ Want人数
■ Must人数

居住地選択で重視した項目

【マスト項目】

- 1 住居 (広さ・費用など)
- 2 立地・アクセス (通勤時間等)
- 3 買い物・飲食

【ウォント項目】

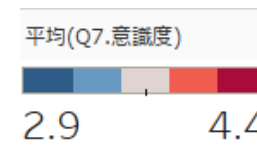
- 1 子育て支援・保育サービス
- 2 事故・犯罪
- 3 教育環境

問7 子育てに関する具体的な項目についてどの程度意識したか

- 「子どもの医療費助成」が、全属性共通で意識が高く、次いで「子どもの教育環境」「子ども向け施設の充実」と続く。

つながり

Q7.意識度	① 市内へ転入	② 市内間の転居	③ 市外への転出	④ 市内の在住
おむつの支給など、子育てに関する現物給付（ものがもらえる）	3.1	3.1	2.9	3.3
学校を含む子どもの教育環境	4.1	4.1	4.3	4.2
学童保育（児童ホーム・こどもクラブなど）の数（受け入れ可能な施設数）	3.3	3.5	3.1	3.6
子ども・子育てに対する現金給付（お金がもらえる）	3.8	3.9	3.5	4.0
子ども医療費の助成（〇歳まで医療費減免・無償など）	4.3	4.4	4.2	4.3
子ども向け施設の充実（児童館や子育てひろばといった、子連れで通...	3.8	3.9	3.8	3.8
住宅補助（住宅取得の補助金、家賃・転居費用補助など）	3.2	3.3	3.0	3.5
待機児童の数（保育施設の入りやすさ）	3.6	3.6	3.5	3.9
妊婦検診・乳幼児への健診・支援などの保健サービス	3.8	3.7	3.7	4.0
病児保育や相談窓口の充実など、子育て支援の手厚さ	3.6	3.5	3.4	3.6
保育料の減免（第〇子は半額・全額減免など）	3.7	3.9	3.6	4.0



意識した子育て支援政策

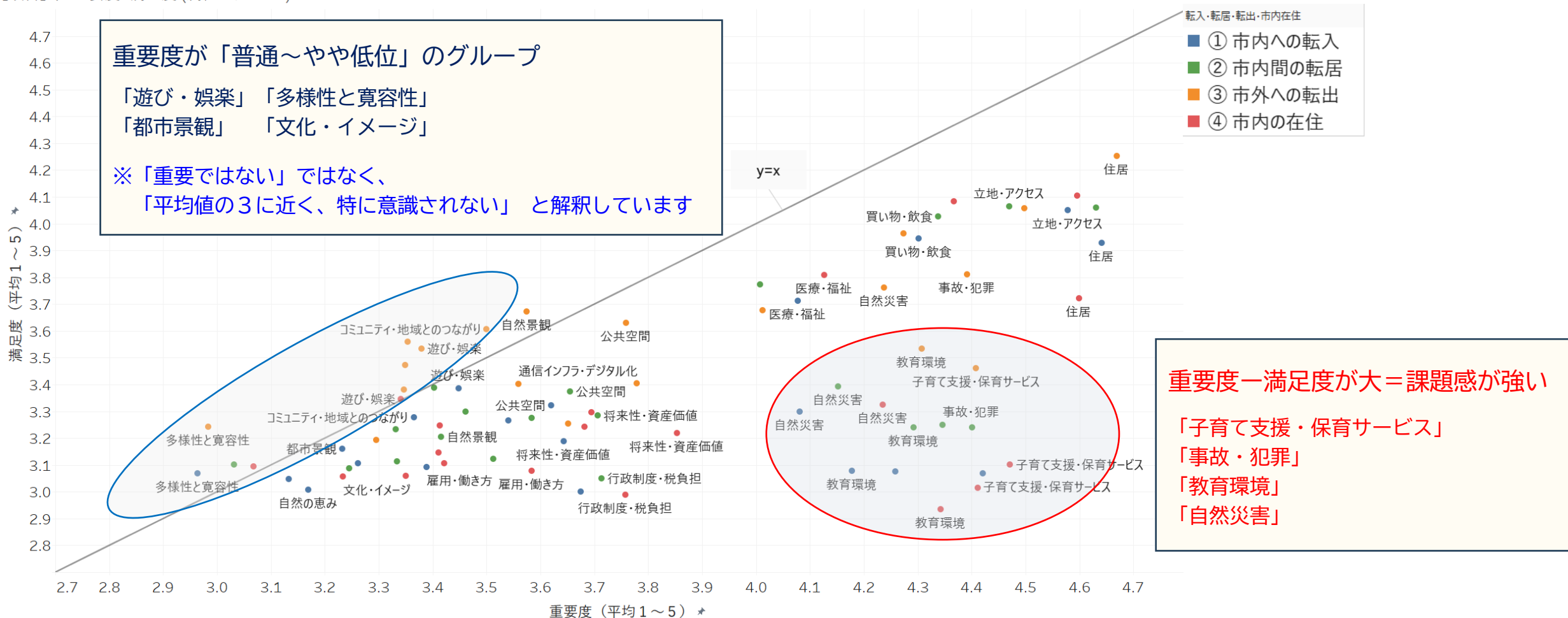
- 1 子ども医療費助成
- 2 子どもの教育環境・施設（学校・子育て広場等）

※ ただし回答者が「4歳以下の子がいる世帯」であるため、「学童保育」が低くなっている等の可能性

問8 現在の居住地で生活する中で重視している条件

- 全体的な傾向として、重要度が満足度を上回る項目が多い。
- 「子育て支援・保育サービス」「事故・犯罪」「教育環境」「自然災害」で差分が大きい一方、「遊び・娯楽」「都市景観」「多様性と寛容性」「文化・イメージ」は差分が小さい。

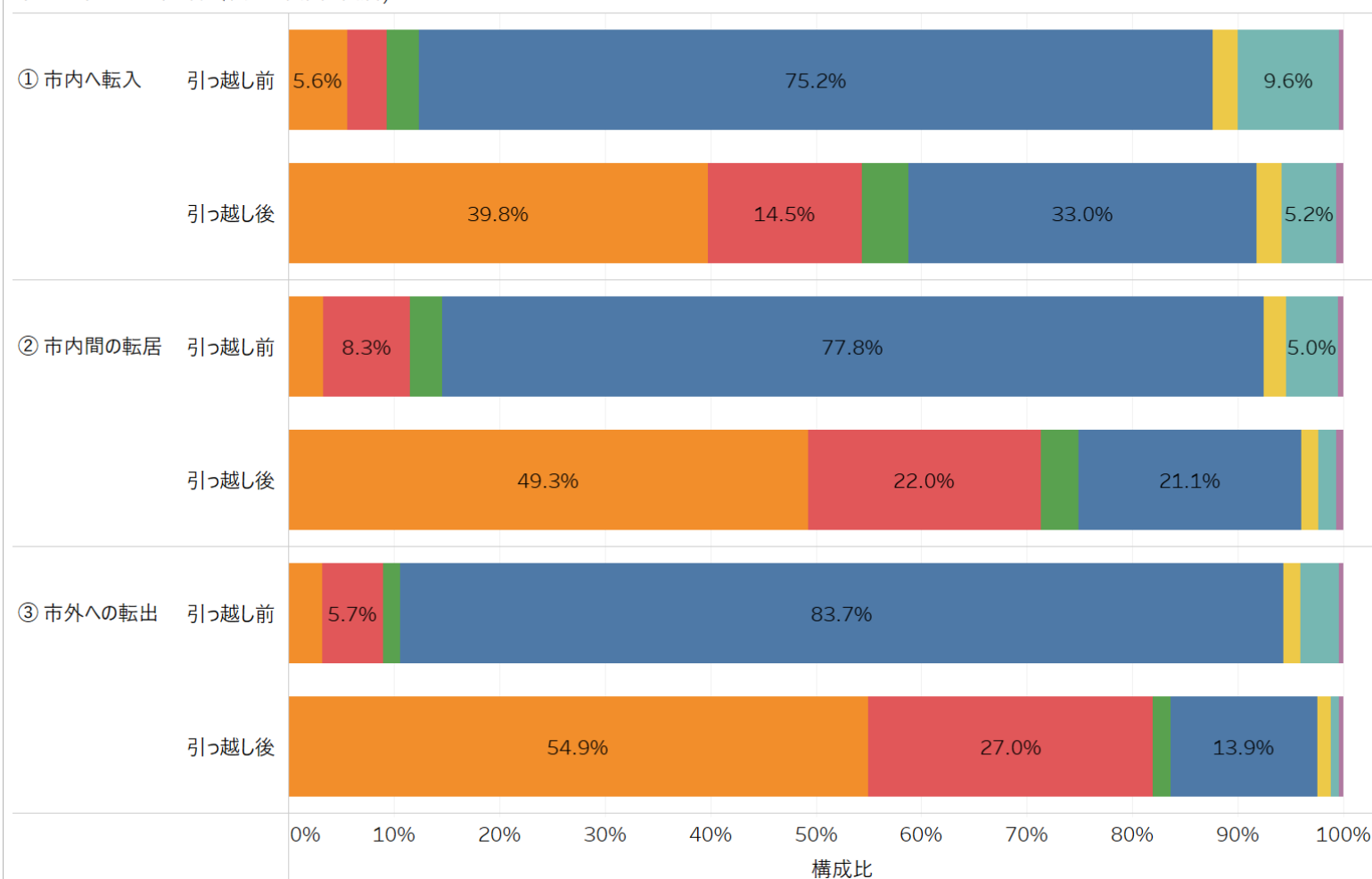
【改善】Q8.重要度×満足度 (属性色分けあり)



F5 引っ越し前後の住居の種類

- 引っ越し前後の住居種別では、引っ越し前は「借家（マンション等）」が7割強～8割強で最多である一方、引っ越し後は「持家（戸建て）」が4割～5割強となっており、この傾向は3つの属性で共通。
- 引っ越しを契機に賃貸マンションから戸建てへと住み替えている層が多いことがうかがえる。

Q14-1.住まいの種類（転入・転出・転居）



Q14-1.住まいの種類

- その他（具体的に）
- 社宅や寮
- 親の家に同居
- 借家（マンション等）
- 借家（戸建て）
- 持家（マンション等）
- 持家（戸建て）

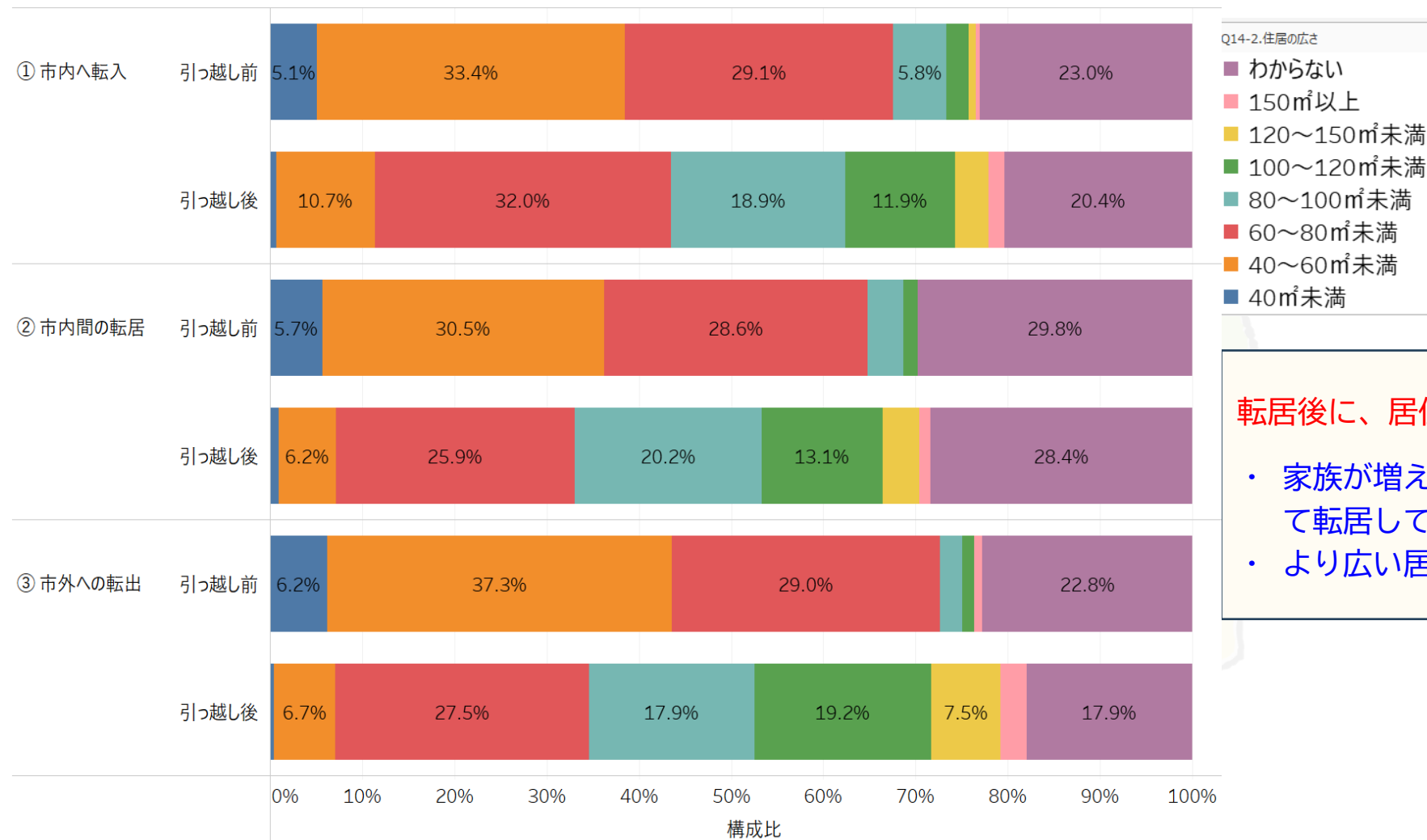
転居前後で「借家→持ち家」の住み替えが多い

※ 住宅購入を機に転居する動きが見られる
→ 持ち家取得後は定住の傾向が一定見られる
→ 市内で購入のきっかけ・動機付けが有効か

F5 引っ越し前後の住居の広さ

- 引っ越し前後の住居の広さについては、引っ越し前は「40～60㎡」が最多であるが、引っ越し後は「60～80㎡」が最多となっており、引っ越しを契機により広い住居へ住み替えている実態がうかがえる。

Q14-2.住居の広さ（転入・転出・転居）



転居後に、居住面積は広くなる

- ・ 家族が増える、子の成長など、広い面積を求めて転居している可能性がある
- ・ より広い居住空間の供給が望まれる可能性がある

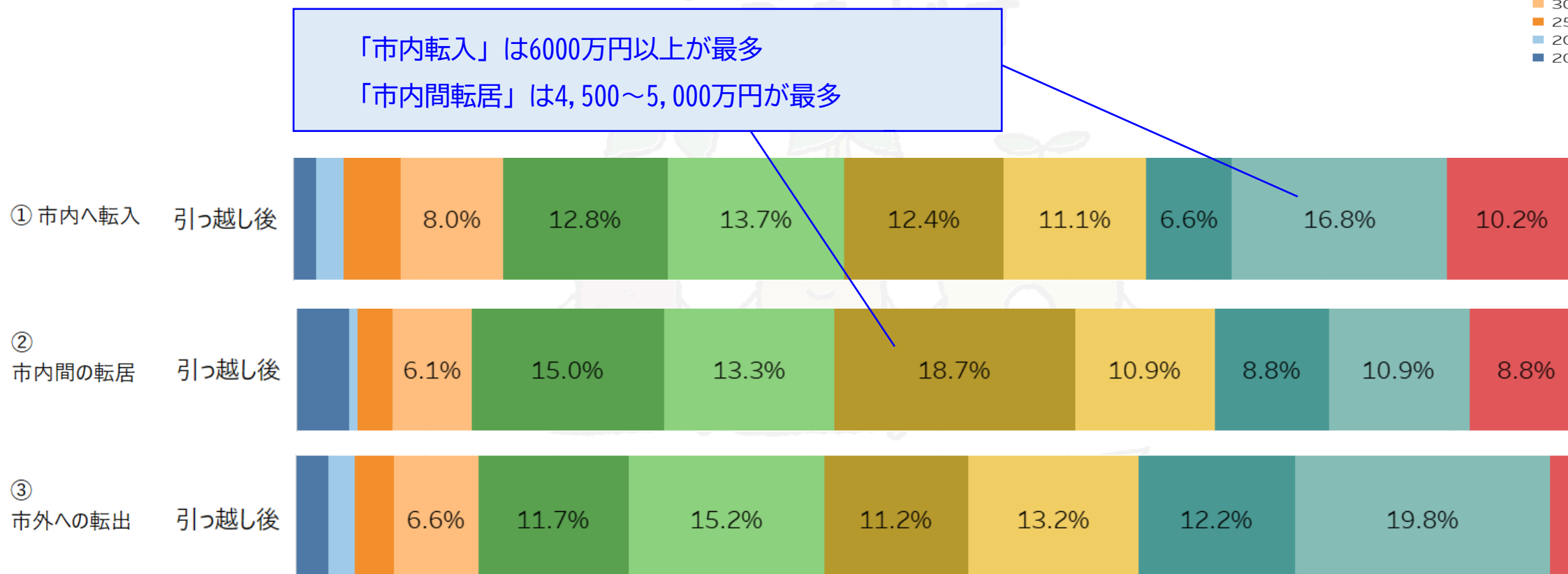
F7 引っ越し前後の住居の取得価格（持ち家）

- 価格帯が見えている範囲で、転居前は2,000～4,000万円台中心で分布が比較的まとまっている。
- 転居後は全属性で「わからない」が約1割程度まで低下、分布も4,500万円以上に厚みが出ることから、転居後ほど高価格帯の選択が増える傾向がうかがえる。

Q16.取得価格・家賃（転入・転出・転居）

Q16.お住まいの取得価格・家賃1

- わからない/答えない
- 6000万円以上
- 5500～6000万円未満
- 5000～5500万円未満
- 4500～5000万円未満
- 4000～4500万円未満
- 3500～4000万円未満
- 3000～3500万円未満
- 2500～3000万円未満
- 2000～2500万円未満
- 2000万円未満

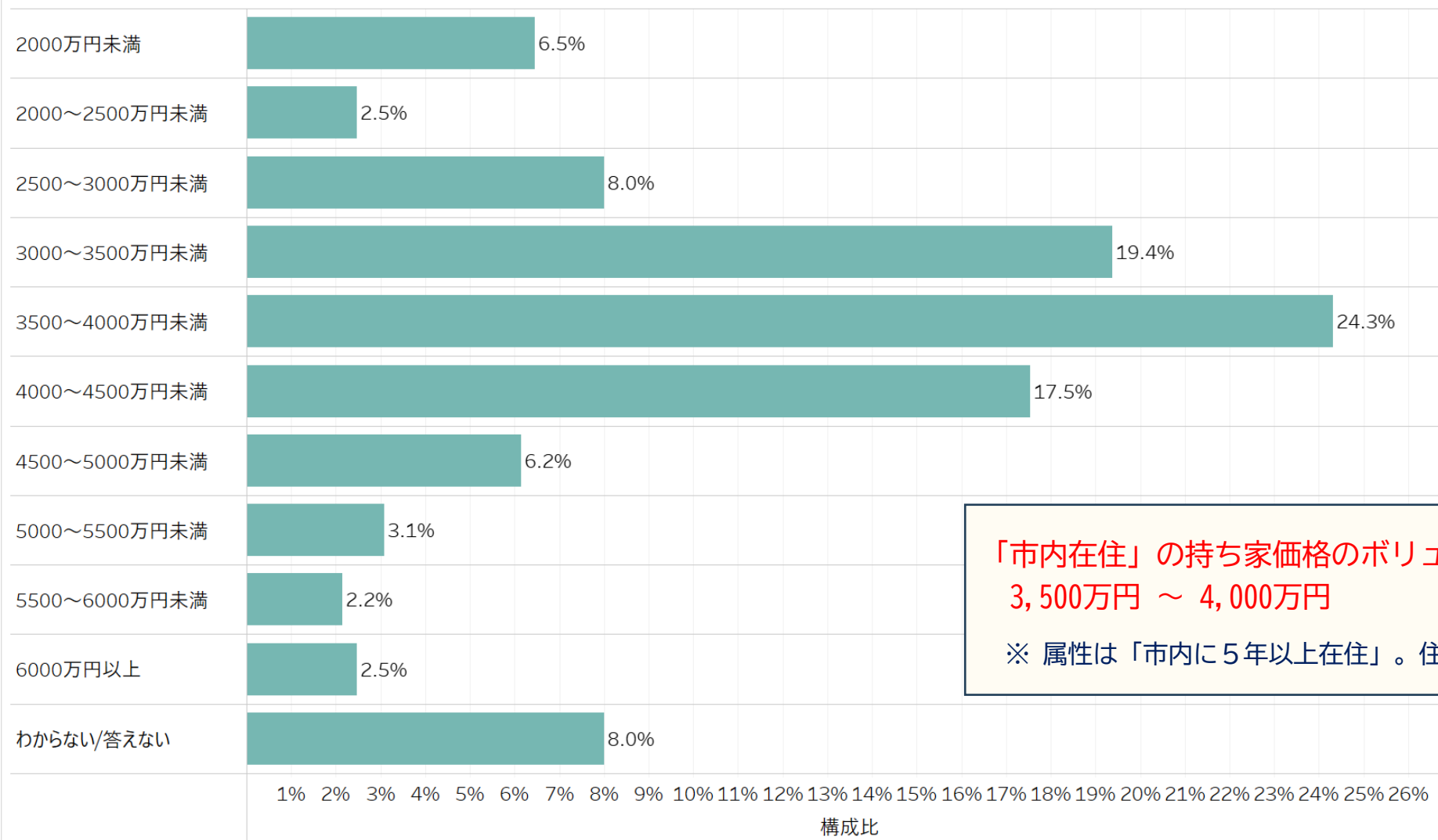


「市外転出」は6,000万円以上が最多。高価格の傾向

F6 現在の住居の取得価格（持ち家）

➤ 市内在住の持ち家の取得価格のボリュームゾーンは3,000～4,500万円未満。

Q16.取得価格・家賃（在住）

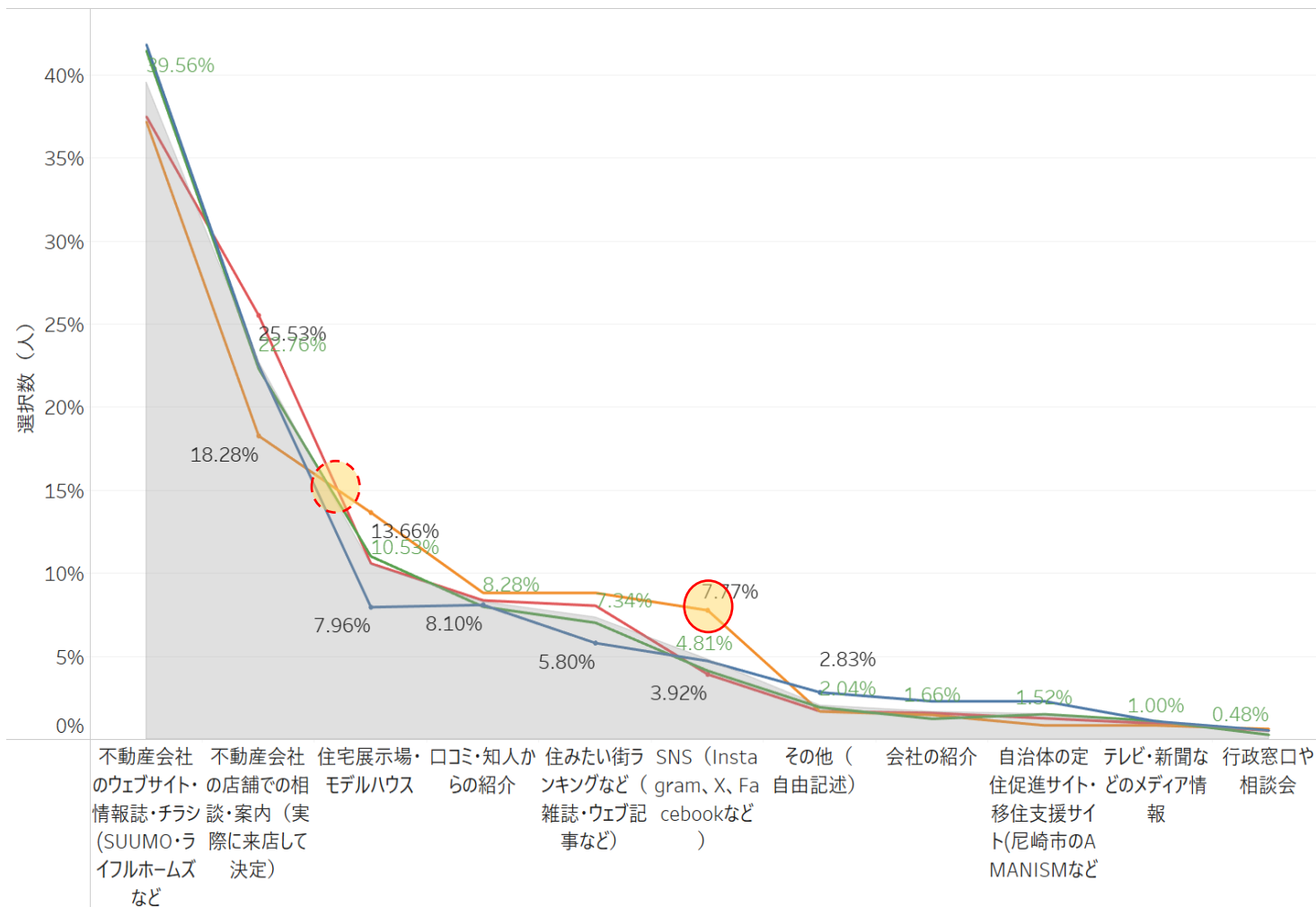


「市内在住」の持ち家価格のボリュームゾーンは
3,500万円 ～ 4,000万円

※ 属性は「市内に5年以上在住」。住宅取得時期は5年以上前となる

F8 住宅を選ぶ際に参考にする情報源

- 住宅を選ぶ際の情報源としては、「不動産会社のウェブサイト・情報誌・チラシ」「不動産会社の店舗での相談・案内」が上位を占め、上位における属性別の差異はほとんど見られない。
- 市外転出は、「SNS」について他属性よりも突出しており、「住宅展示場・モデルハウス」もやや多い傾向。



属性を問わず、住宅取得の際に参考にする上位2つは

- ①不動産会社のウェブサイト
- ②不動産会社の店舗等での相談

以下、属性で異なるが

- ・住宅展示場 ・口コミ
- ・住みたい街等のランキング ・SNS の順

【考察】

「自治体のサイト」は低いですが、不動産会社が自治体サイトから情報を取得しているのであれば、間接的に効果が大きい可能性

F12 回答者と配偶者/パートナーの出身地

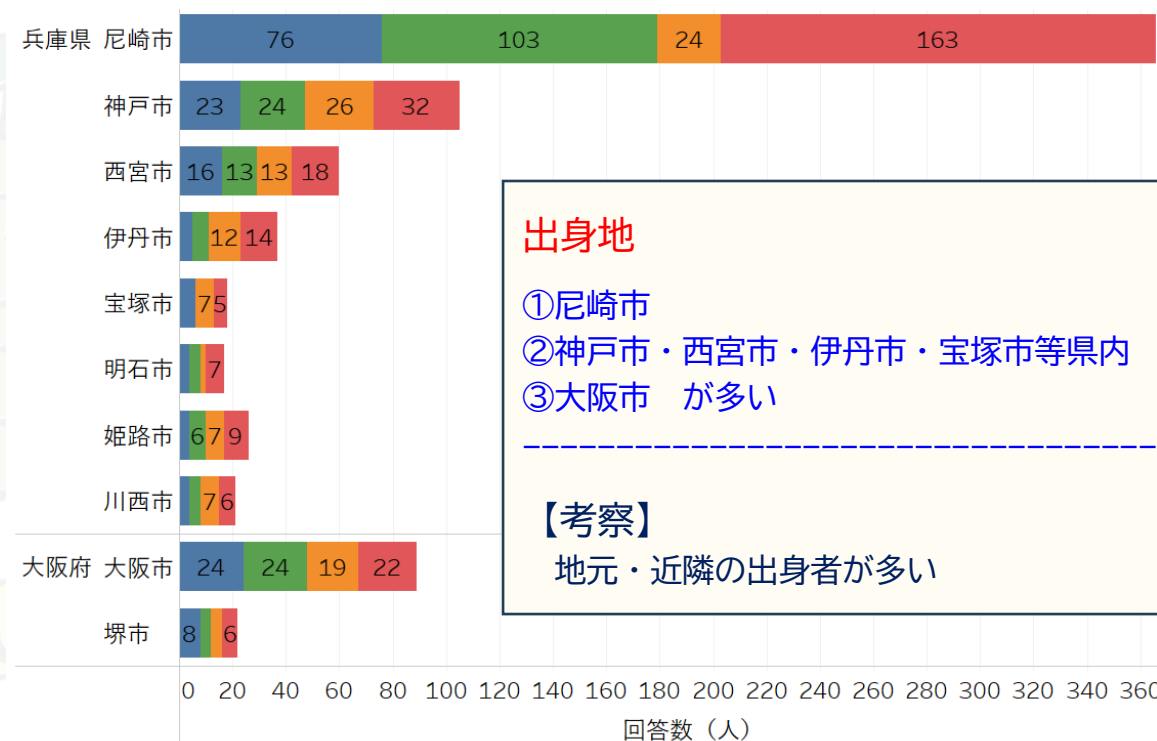
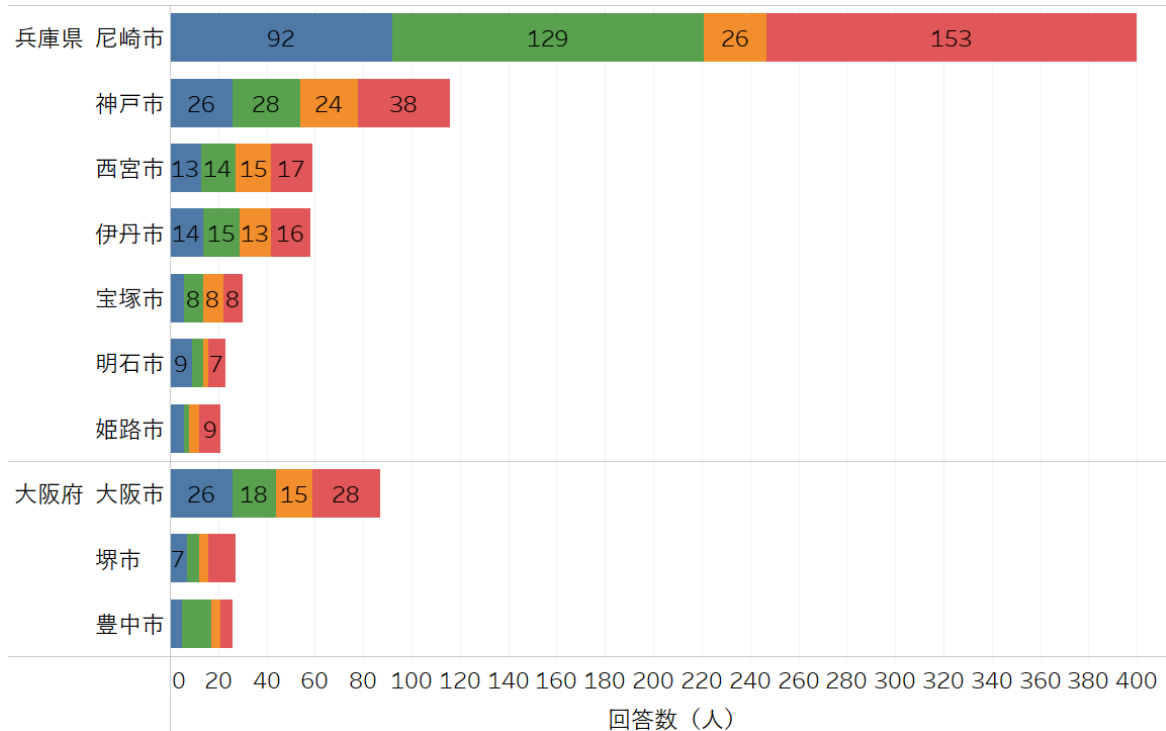
- 出身地は「尼崎市」が最多で、①～④すべての属性でボリュームが大きい。
- 次いで「神戸市」「大阪市」が多く、奈良県・京都府の市町村は相対的に少数。

転入・転居・転出・市内在住

- ① 市内への転入
- ② 市内間の転居
- ③ 市外への転出
- ④ 市内の在住

回答者

配偶者/パートナー



出身地

- ① 尼崎市
- ② 神戸市・西宮市・伊丹市・宝塚市等県内
- ③ 大阪市 が多い

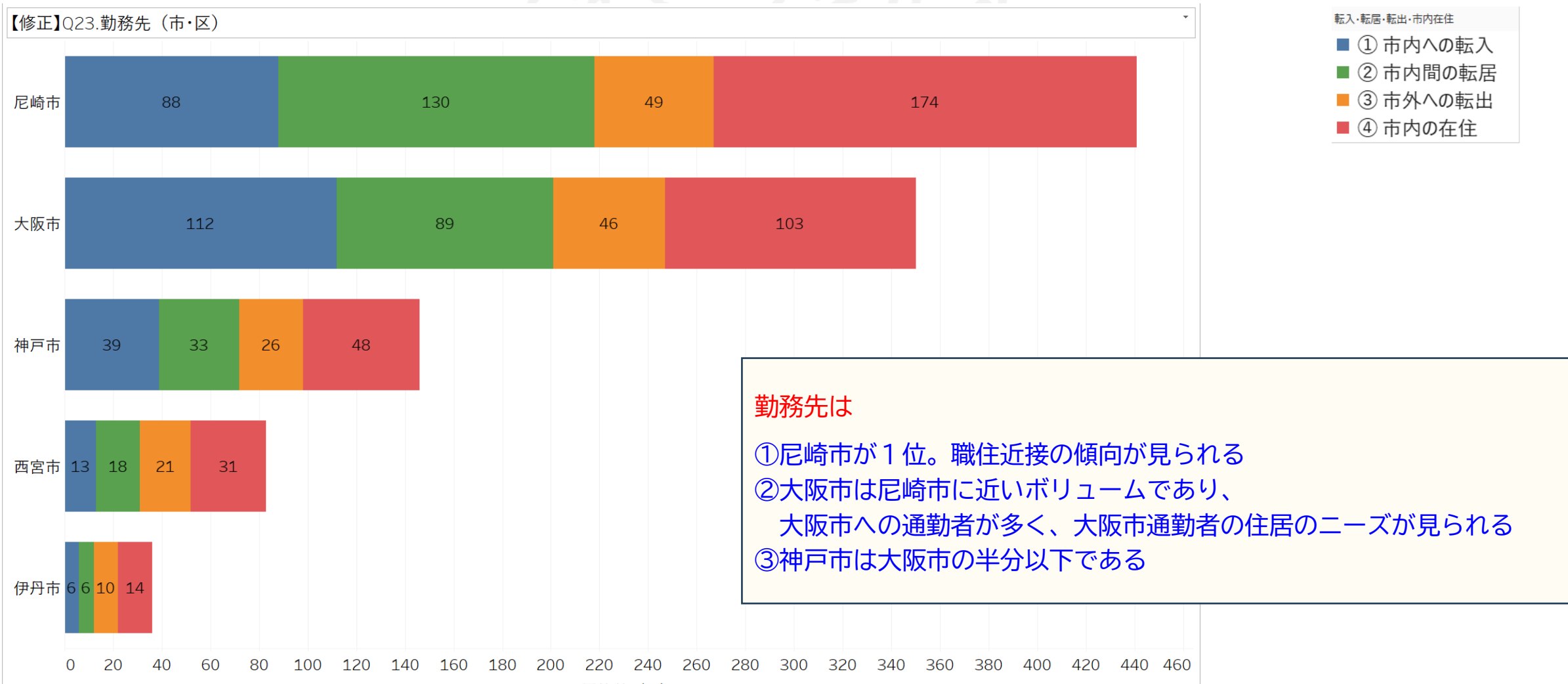
【考察】

地元・近隣の出身者が多い

※市町村単位で上位1位-10位で抽出

F14 回答者の勤務先

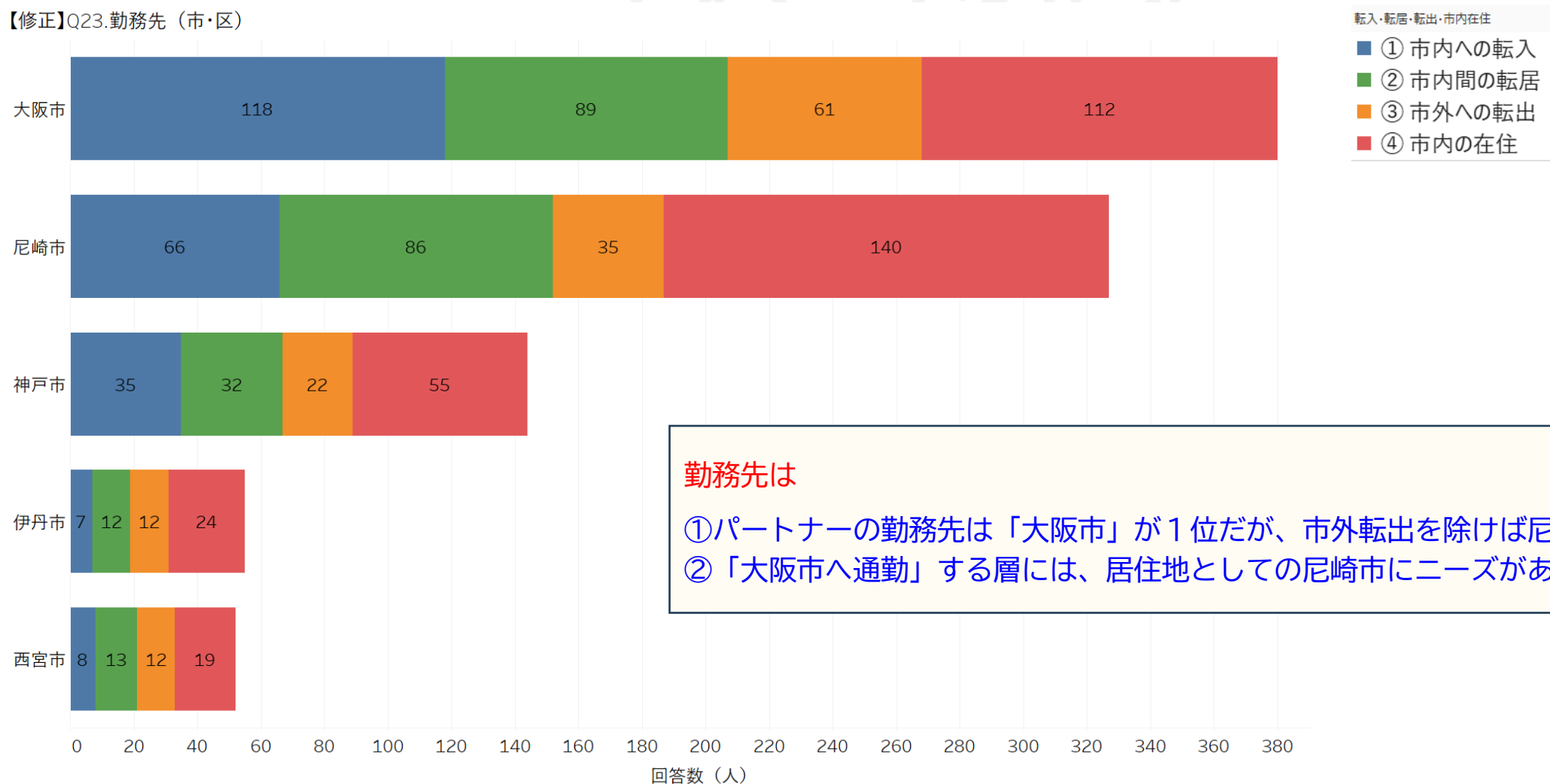
- 勤務先は、全体では尼崎市内＞大阪市＞神戸市＞西宮市の順に多い。
- 属性別に見ると、市内転入のみ大阪市が第1位となっている。



F14 配偶者/パートナーの勤務先

- 勤務先は、全体では大阪市＞尼崎市内＞神戸市＞伊丹市の順で回答者の順序と異なる
- 属性別に見ると、市内転入のみ大阪市が第1位となっている。

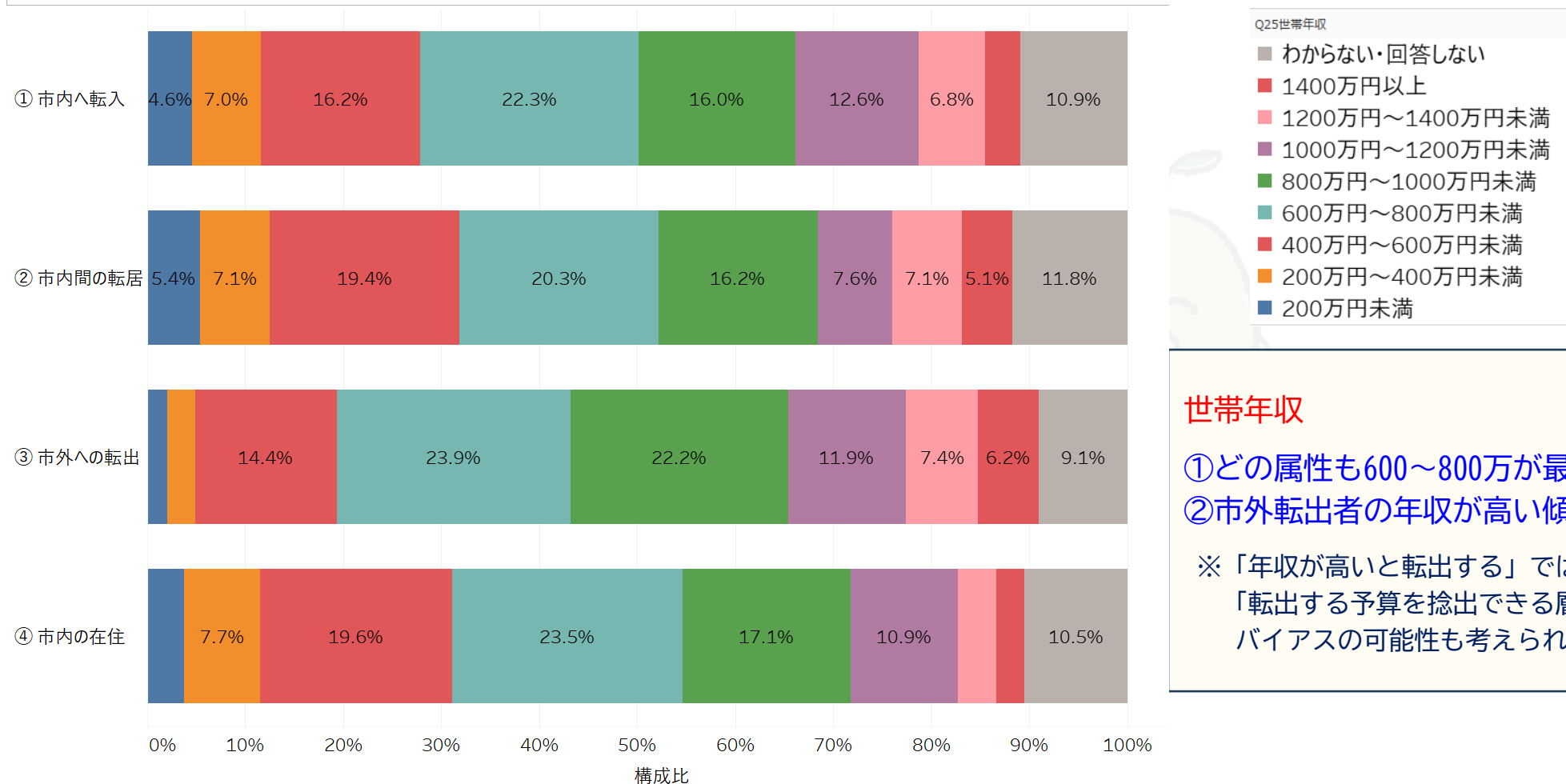
【修正】Q23.勤務先（市・区）



F16 世帯年収（税込）

- 世帯年収は、全属性で600～800万が最多。
- 二番目のレンジは市外転出は800～1000万である一方で、その他の属性は400～600万であった。
- 市外転出者は低所得者が少なく、他の属性と比較し、やや収入が高い傾向がうかがえる。

Q25.世帯年収



世帯年収

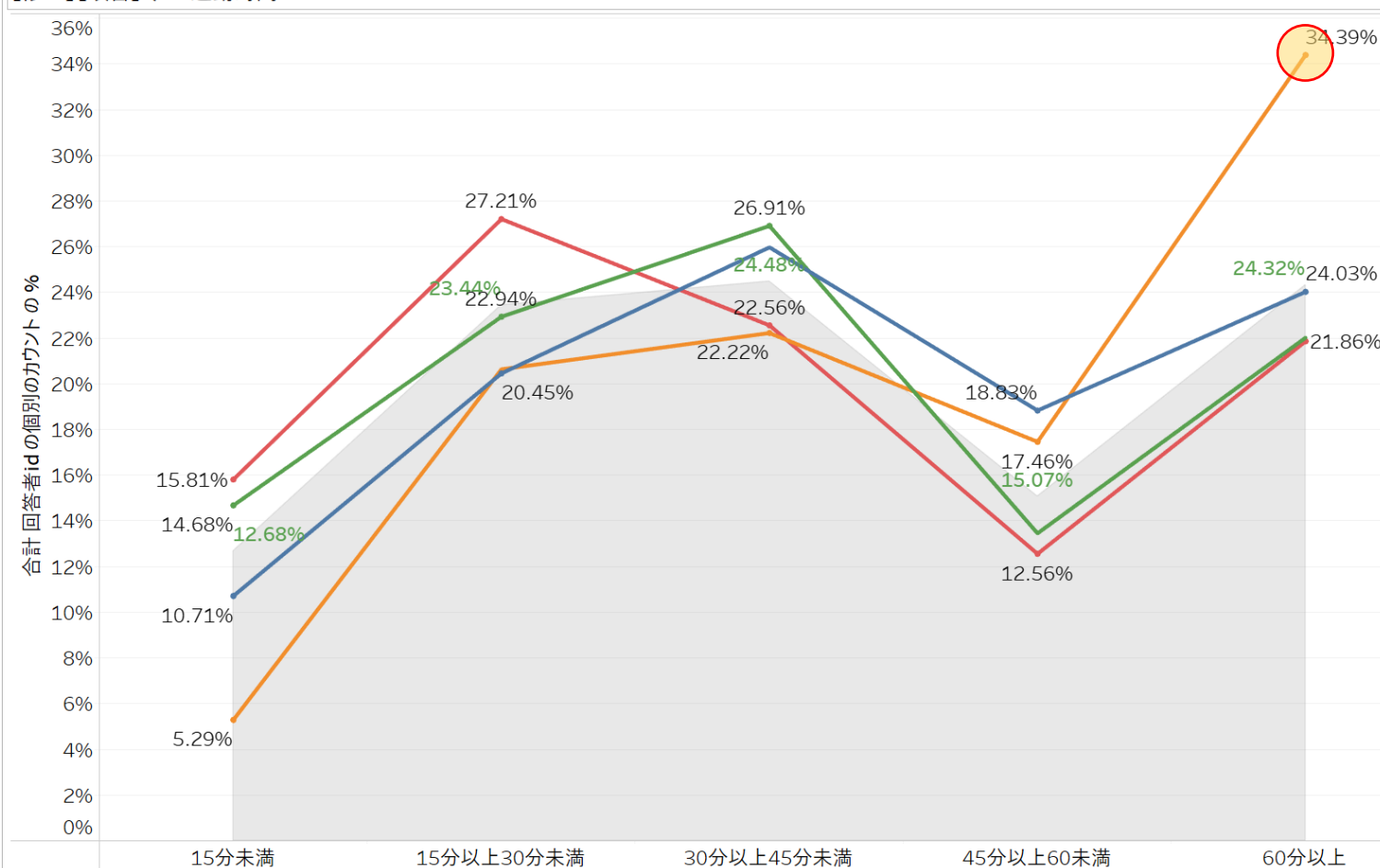
- ①どの属性も600～800万が最多
- ②市外転出者の年収が高い傾向

※「年収が高いと転出する」ではなく、
「転出する予算を捻出できる層が回答している」という
バイアスの可能性も考えられる

F14 回答者と配偶者/パートナーの通勤時間

- 全体の傾向としては「15～30分」または「30～45分」が最多もしくは次点となった一方で、市外転出については「60分以上」が最多となっており、明確な差異が存在。
- 市外転出により、通勤時間が長くなっている層が一定数存在すると推測される。

【修正】【改善】Q23.通勤時間r2



転入・転居・転出・市内在住

- ① 市内へ転入
- ② 市内間の転居
- ③ 市外への転出
- ④ 市内の在住

通勤時間

①ボリュームゾーンは市内在住「15-30分」
市内間転居・転入「15-45分」

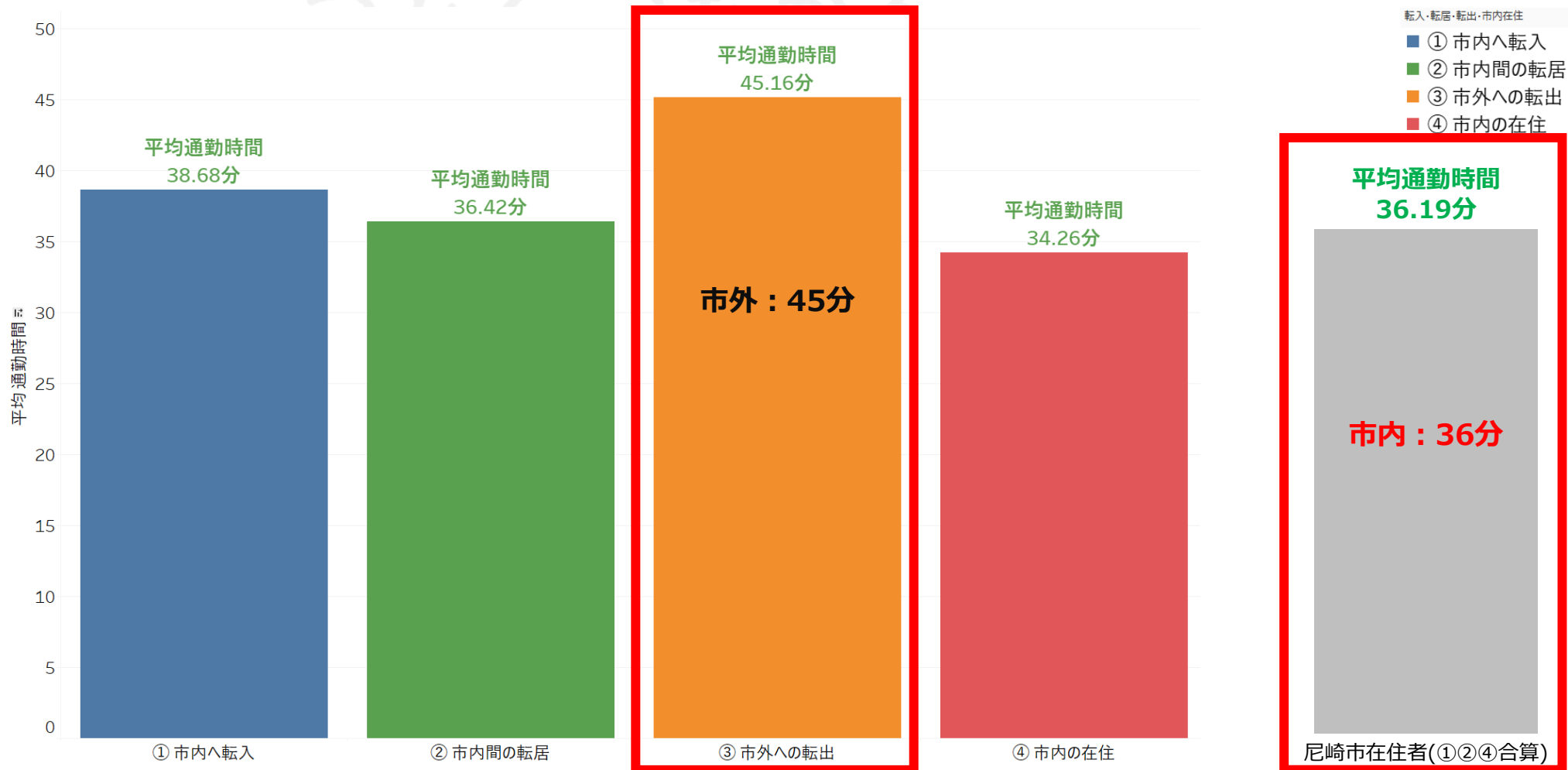
→ 市内在住者の通勤時間の短さが確認できる

②市外転出は60分以上が最多（約1/3）

→ 転出すると通勤利便性は悪化する

F14 回答者の勤務先と平均通勤時間

➤ 勤務先までの平均通勤時間は、市外へ転出する層が最も長く、一方尼崎在住者層は短めで推移している



通勤時間合計(分)	11,334	11,253	8,355	14,251	36,838
回答者数(人)	293	309	185	416	1,018

【転居のきっかけ】

- ・「住宅購入」「子ども」などのライフイベントがきっかけで転居する傾向

【現在の居住地に住み続ける理由】

- ・ 転居の必要がない
 - ・ 現在の居住地に満足している
 - ・ 持ち家・ローンのため
- 一度居住すれば理由なく転出しない可能性

【比較検討した自治体】

- ・ 西宮市、伊丹市、大阪市、神戸市の順。明石市とは比較されない
- ※ ただし、「尼崎市を選んだ方の回答」として解釈すること

【居住地選択で重視する項目】

- ・ **住居**（広さ・費用など） ／ **立地・アクセス**（通勤時間等）を**最重視**
- ・ **買い物・飲食**（生活利便性）が**次点**

※ ただし、「尼崎市を選んだ方の回答」として解釈すること

【子育て政策を意識したか】

- ・ **転入者・転出者は一定意識**。尼崎市は選択されており、一定の評価がある
- ・ **市内在住・市内間転居は意識が低い傾向**。尼崎在住が前提である可能性

【生活での重要度と満足度】

- ・ 重要だが満足度が低い「課題感が強い」項目は
「**子育て支援・保育サービス**」「**事故・犯罪**」「**教育環境**」「**自然災害**」
- ・ 重要度が平均的～低位＝居住地選択に影響しない
「**遊び・娯楽**」「**都市景観**」「**多様性と寛容性**」「**文化・イメージ**」

【転居前後の変化】

- ・ 転居後に、居住面積は広くなる傾向
- ・ 家族が増える、子の成長など、広い面積を求めて転居している可能性がある
- ・ より広い居住空間の供給が望まれている可能性がある

【住宅選択の情報源】

- ・ 「不動産会社（ウェブ・店舗）」が圧倒的に大きい
→ 不動産会社へのアプローチが有効である可能性
- ・ 市の定住サイトの比重は小さいが、不動産会社の情報源であるなら重要である可能性

【勤務先】

- ・勤務先は尼崎市が1位。職住近接の傾向が見られる
- ・大阪市への通勤者が多く、大阪市通勤者の住居としてのニーズが見られる
- ・神戸市は大阪市の半分以下。重要度としては大阪市勤務者が高い可能性

【通勤時間】

- ・市内在住者は「15-30分」が多い。平均通勤時間は、大阪・兵庫の平均より短い
 - ・市外転出者は「60分以上」が最多
- 通勤に関する本市の優位性が確認できる。市外転出で通勤利便性は悪化する

【転出理由について】

- ・これまで、本市は「治安・マナー」「教育」といった分野に対する不満等により、ファミリー世帯が転出すると考えてきた
 - ・それは誤りではないが、今回の調査結果を踏まえ、より詳細に分析すると以下となる
- ① 転居のきっかけは子どもの成長等に伴う、住宅の購入・住み替えである
 - ② その際に最も重視するのは「住居（広さ・費用）」「アクセス」「利便性」である
 - ③ 治安等は「より良い住環境」の一部として見られるが、
「ファミリー世帯の居住地選択の理由」に占める重要度は上位ではない可能性

【比較対象となる自治体】

- ・西宮、伊丹、大阪、神戸であり、明石は比較対象ではない
- ・自治体の子育て政策は転居時に一定意識されており、本市も一定評価を得ている可能性

【市内在住者及び転出者の属性】

- ・ 転出者の所得が比較的高い傾向
- ・ 市内在住者は通勤時間が短く、市外転出者は通勤時間が長い
- ・ 回答者及び配偶者の勤務地は「**尼崎市・大阪市**」が多い
(実際に、ファミリー世帯の大阪市から尼崎市への転入超過は人口動態分析で確認済)

→ 共働き世帯に「通勤利便性」が評価され、本市が選ばれている可能性

【今後の市の方向性（事務局案）】

- ・ 本市の魅力は一定評価されており、比較検討した上で本市が選ばれている
- ・ 尼崎市在住者は、「**住居（広さ・費用）**」「**アクセス**」「**利便性**」を評価している
- ・ 尼崎市在住者は、**通勤時間が短い**
- ・ **尼崎市・大阪市への通勤が多いため**、
共働き世帯に対し、
「**尼崎市に住み、尼崎市か大阪市で働く**」ことで、
「**働くも子育ても両立できる**」というメッセージを打ち出せないか
- ・ また**不動産サイト・店舗の影響が大きい**ため、そこへのアプローチが検討できないか
- ・ 子育て政策は一定の判断材料となっており、引き続きの取組が必要

つなぐ つながる
うごきだす

構成員からの意見



【安藤構成員】

項目	要旨
市外転出の扱い	・引っ越し前後の環境や就労地を考慮・検討に加えるべきでは ・市外転出者と尼崎市在住者は特徴が異なる。分けて分析すべきでは ・切り分けた上で、全体の傾向を見ていくべき
母親・父親の回答分析	・（回答者に女性が多いことについて）性的役割分業の影響が出ている可能性がある ・母親と父親の回答を分けて見ていくべきでは ・夫の通勤地別に解像度を高めても良いのでは ・また、市外転出者の尼崎への通勤が多い点も考慮しては
転出理由の深掘り	・市外転出の理由から、尼崎の弱みをあぶり出せるのでは ・「課題感が高い項目」については、重要度が高い政策ほど満足度の採点が辛くなる傾向があるため、間引いて判断すべき ・転出先や住居種別（戸建て・マンション）を分けて分析すべきでは ・住居・教育重視層が転出しているように見える。この点の分析を深めるべきでは
人口動態と層の分類	・コストが抑えられる西部エリア等に転出する層と、コストはかかってもより良い環境を求める層に分かれている可能性があるのでは ・大阪 ⇄ 尼崎 ⇄ 西宮の人の流れを①大阪 → 尼崎、②尼崎 → 西宮、③大阪 → 西宮に分類しては ・①の層と③の層の違いや②の層の特徴をより深く理解できるとよいのではないか
政策提言	・市内転入・市外転出・所得や志向別のより詳細な分析を進めるべき ・ファミリーが増加する中、つなぎとめるための施策が必要。転出理由を特定すべきでは

【瀧井構成員】

項目	要旨（箇条書き）
転居タイミングとエリア	・子ども部屋が必要になるタイミングで転居するのは理解できる ・小学校入学前に引っ越したり小学校区を選ぶのが一般的な行動で一つのタイミングではある ・尼崎は大阪通勤者には、アクセスが良く有利
ブランディング	・流山の見せ方を参考に尼崎モデルを構築しては ・不動産事業者との連携（サイトでの市長によるPRなど）も良いのでは。今はWebサイトで外観・内装まで見られ、不動産サイトのニーズは高い ・四条畷市が求人・転職支援企業と連携した事例も見られる。事業者との連携は検討の価値あり
子育て留学・体験移住	・お試しでの子育て、子育て留学が転居・定住のきっかけになる事例もある ・岡山県が、県内自治体の体験移住の制度を紹介したり、北海道の湧別町で、子育て世帯が1～2週間テレワークで滞在しながら、子どもが地域の保育園に通う「保育園留学」などの制度がある。研究してみても ・そうした「体験移住」の制度があれば、住宅購入でのミスマッチ等を防げるかもしれない
マンション共用スペース	・マンション内に子どもスペースや共用スペース、コワーキングがあるとメリットになる ・大規模マンションでは、コミュニティマネージャーを置く事例も見られる。参考にしてみよう ・小さい子連れが利用しやすい環境整備が望ましい
ターゲットと魅力	・大阪で働く人をターゲットにするべきでは ・利便性（タイパ）をシンプルに打ち出すべきではないか ・価格や住環境が良くても、大阪へのアクセスを考慮すると神戸市の西側に住むのは負担が大きい。大阪に近い尼崎の強みを活かしていくべき

【筒井構成員】

項目	要旨（箇条書き）
学力・環境重視の傾向	・ アンケート結果について。高校を重視する傾向が思ったより小さいのは対象年齢によるのでは ・ 子どもにとっては、地域の学力だけでなく、その子に合った環境が必要 ・ 明石は大阪が遠すぎるため、その点は不利かもしれない ・ 「遊び」が思ったより重要度が低い。 レジャー関係が重視されないのは、他自治体へのアクセスしやすかが理由かもしれない
安全・学童ニーズ	・ 事故犯罪が課題であれば、GPS端末助成（品川区で無償貸与、高砂市等で初期費用補助）も検討しては ・ 共働き増加は続いており、学童保育の重要度はさらに高くなる ・ 駅ビルでの民間学童や駅近に学童があれば、タイパ重視の現代に合うのでは
賃貸・住み替え推奨	・ ライフステージに合わせて賃貸で住み替えるのが合理的という考えもある ・ 持ち家の場合は、子どもが育った後などの柔軟性が下がる ・ コストや金利の上昇、老後は町中に住みたいなどあれば購入にこだわらなくてよいのでは ・ 長い目で見た場合には、現役の間は賃貸で、リタイア時に小さな住宅を取得する選択肢もある ・ マイホーム購入にこだわらないライフスタイルを容認すべきではないか
その他	・ コスパ・タイパの時代に尼崎が選ばれるのは、それが尼崎の魅力だからではないか

つなぐ つながる
うごきだす



意見交換

① 尼崎モデルのライフスタイルの提言・提案

本調査の結果、本市を選んでいるファミリー層は

- 共働きで、どちらも尼崎市または大阪市で働いている
- 通勤時間が短い
- 住居とアクセス、生活利便性を重視している

といった特徴がみられる。こうした価値観の層をターゲットに、「尼崎市に住み、仕事と家庭のどちらも充実させる生活スタイル」を提案できないか

② ターゲットの選定とアプローチ方法について

居住地選択に際し、不動産事業者のサイト・店舗から情報を得ている

本市に居住し、大阪市で働く共働き世帯が多い

- 不動産事業者へのアプローチが検討できないか
- 大阪市で働く層や大阪市の不動産事業者にアプローチできないか

③ 転居・住宅取得のタイミングでの介入方法の検討

転居のきっかけは「子どもの成長等に伴う、住宅の購入・住み替え」である。また、「転居時に住宅を購入」する傾向があり、「持ち家になれば理由なく転居しない」傾向がある

- 子どもが増える・成長して手狭になり、住宅を購入するタイミングで介入できないか
- 転居時に「市内で持ち家を購入」を誘導できないかを検討する

④ 転入・定住のアプローチと、定住者の満足度向上のアプローチについて

共働きで利便性を重視する層が、子どもの誕生・成長に合わせて住宅を取得する場合、市内で住宅を取得すれば、その後の定住を期待できる
一方で、転出しないからといって、子育て時の満足度を高める取組は引き続き必要
過去、懇話会で「高校生医療費助成は転居理由にならない」とあったが、満足度向上にはつながるはず、といった議論も必要では

- 今後は「定住促進策」と「満足度向上策」に分けて進めるなど検討できないか
- そうすることでアウトカムが明確になり、事業の評価・効果検証がしやすくなる

つなぐ つながる
うごきだす

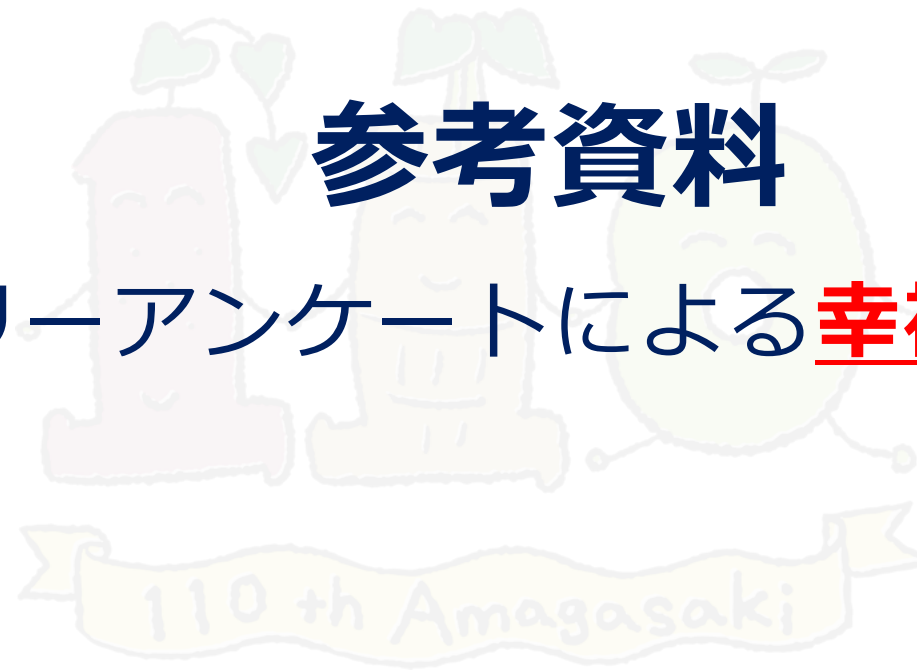
振り返り・閉会



つなぐ つながる
うごきだす

参考資料

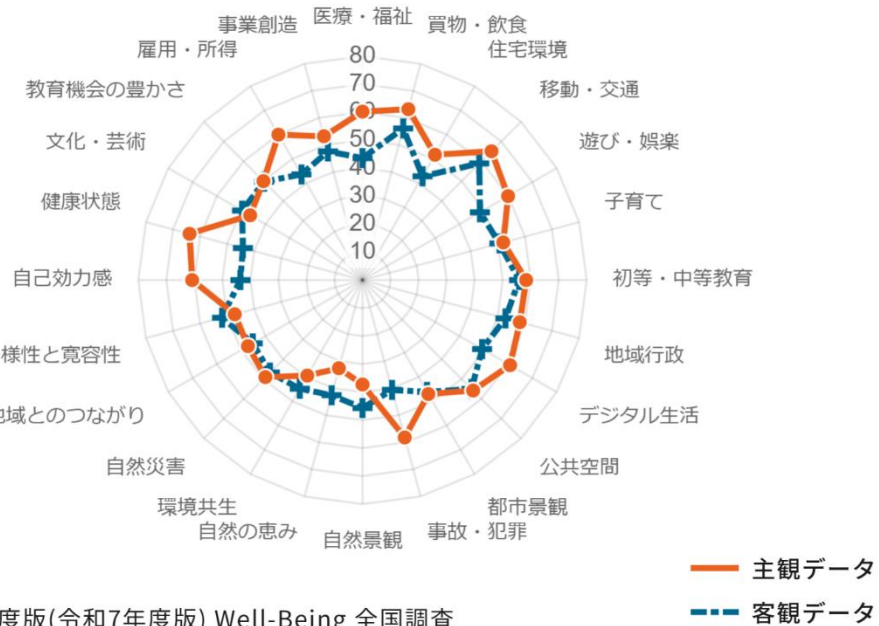
(ファミリーアンケートによる幸福度調査結果)



尼崎市の幸福度（全年代・ファミリー世帯）

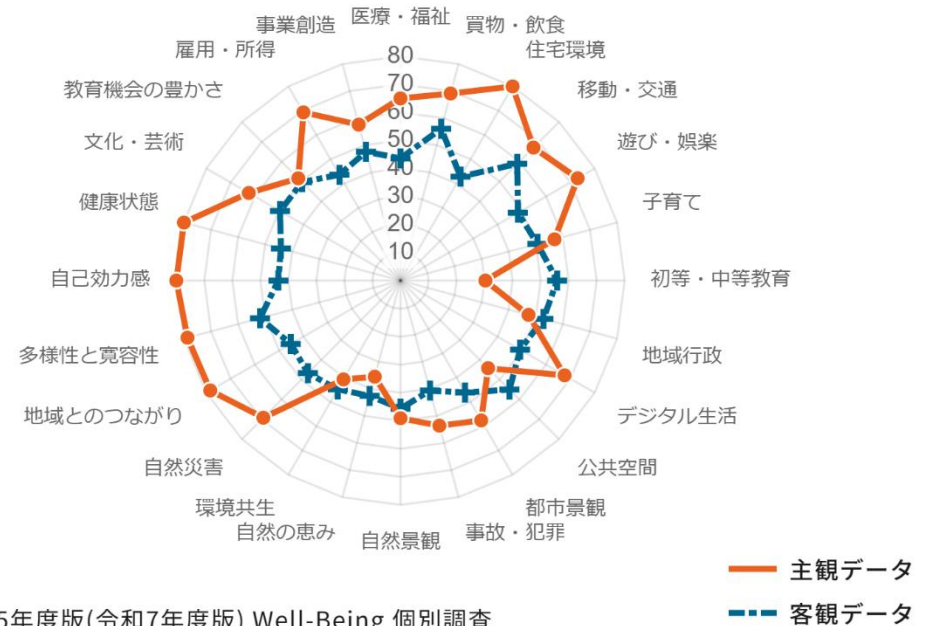
レーダーチャート

全年代（n = 105）



【出典】2025年度版(令和7年度版) Well-Being 全国調査

ファミリー世帯（n = 1,404）



【出典】2025年度版(令和7年度版) Well-Being 個別調査

ファミリー世帯の特徴

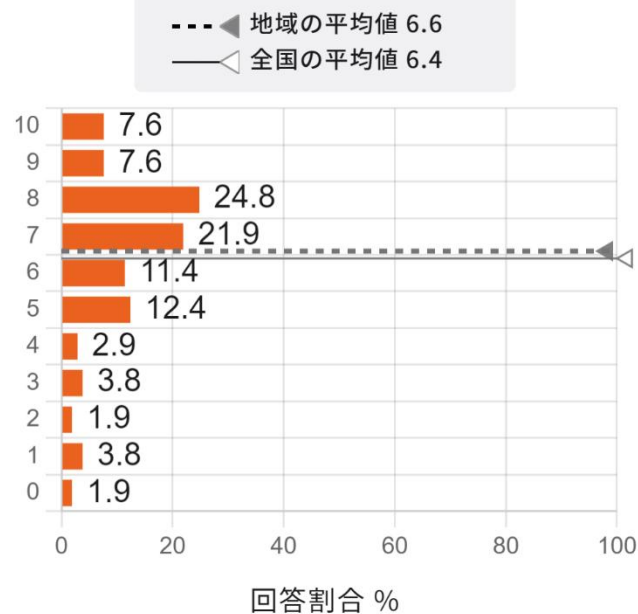
- ① 本市のファミリー世帯は多くの項目で「主観評価」が高い
- ② 一方で「初等・中等教育」の主観評価は低い

尼崎市の幸福度（全年代・ファミリー世帯）

幸福度

全年代（n=105）

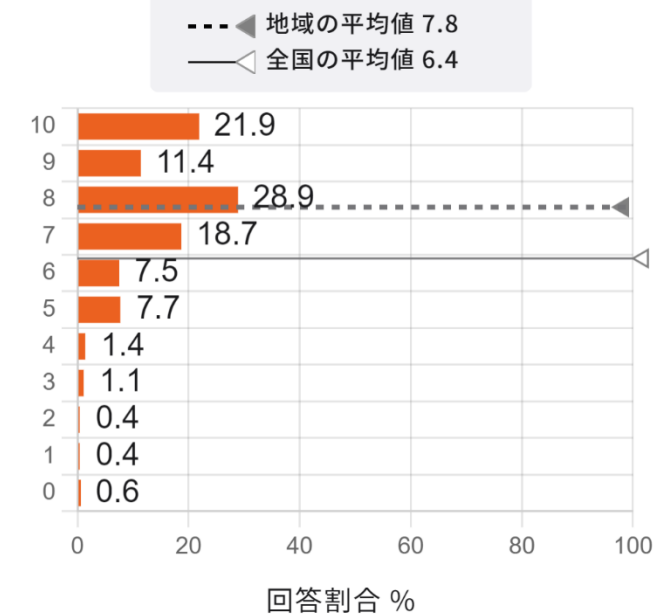
幸福度



【出典】2025年度版(令和7年度版) Well-Being 全国調査

ファミリー世帯（n=1,404）

幸福度



【出典】2025年度版(令和7年度版) Well-Being 個別調査

本市の幸福度

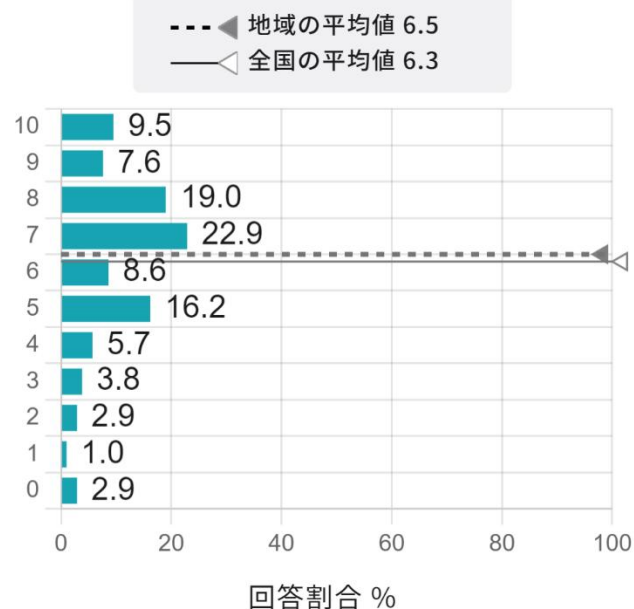
- ①「ファミリー世帯」の幸福度が高い(全国 6.4, ファミリー 7.8)
- ②「全年代」の幸福度は全国平均と変わらない

5年後の幸福度（全年代・ファミリー世帯）

5年後の幸福度

全年代（n=105）

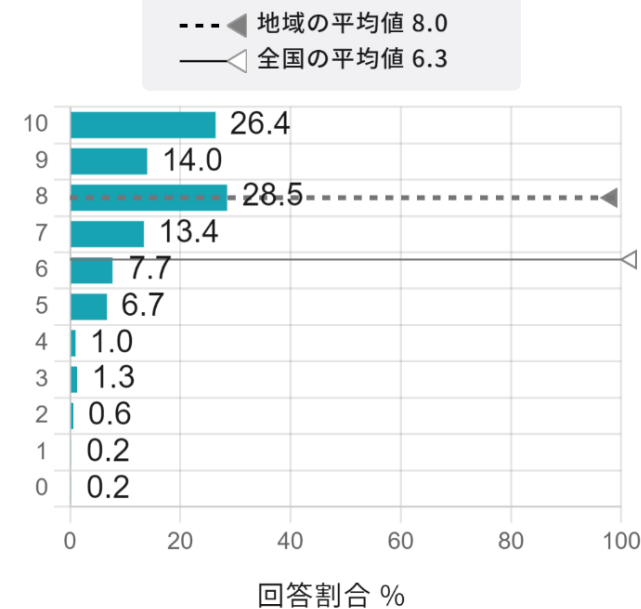
5年後の幸福度



【出典】2025年度版(令和7年度版) Well-Being 全国調査

ファミリー世帯（n=1,404）

5年後の幸福度



【出典】2025年度版(令和7年度版) Well-Being 個別調査

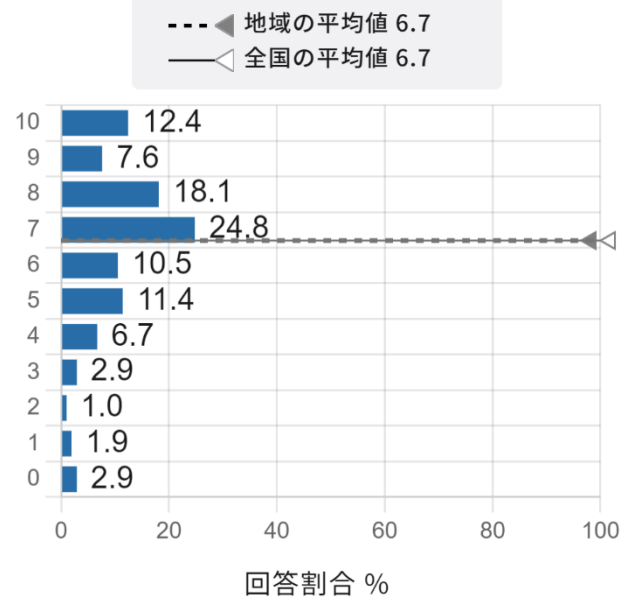
5年後の幸福度

- ①「ファミリー世帯」が高い(全国 6.3, ファミリー 8.0)
- ②「全年代」の幸福度は全国平均と変わらない

生活満足度

全年代（n=105）

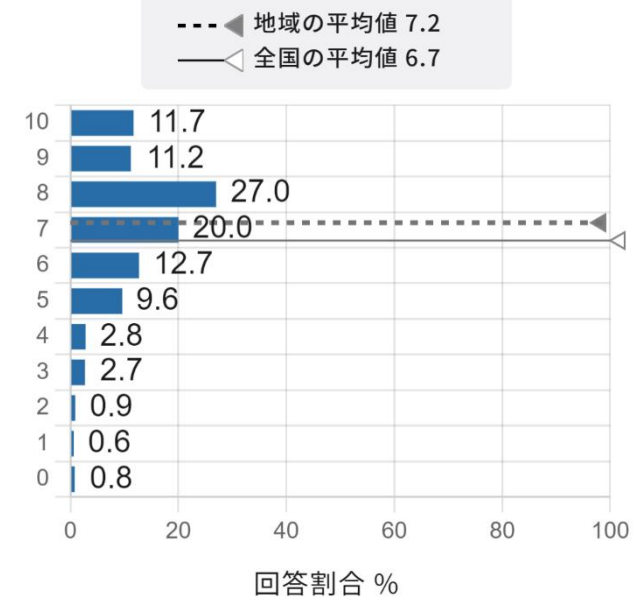
生活満足度



【出典】2025年度版(令和7年度版) Well-Being 全国調査

ファミリー世帯（n=1,404）

生活満足度



【出典】2025年度版(令和7年度版) Well-Being 個別調査

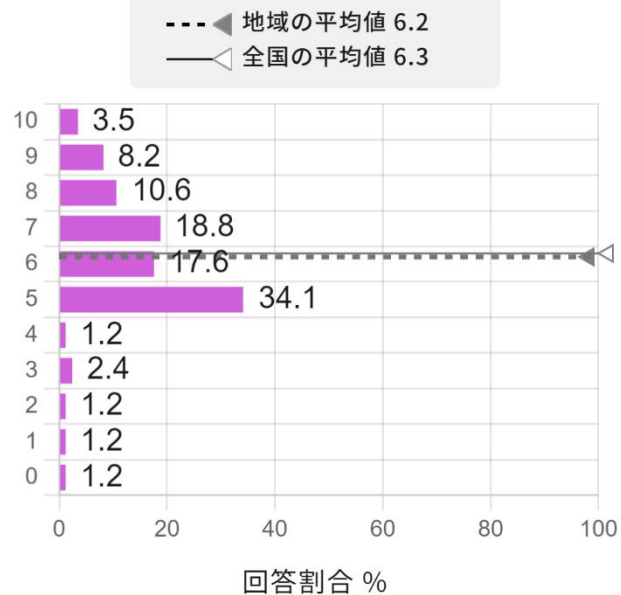
生活満足度

- ①「ファミリー世帯」の満足度が高い(全国 6.7, ファミリー 7.2)
- ②「全年代」の幸福度は全国平均と変わらない

町内の幸福度

全年代（n=105）

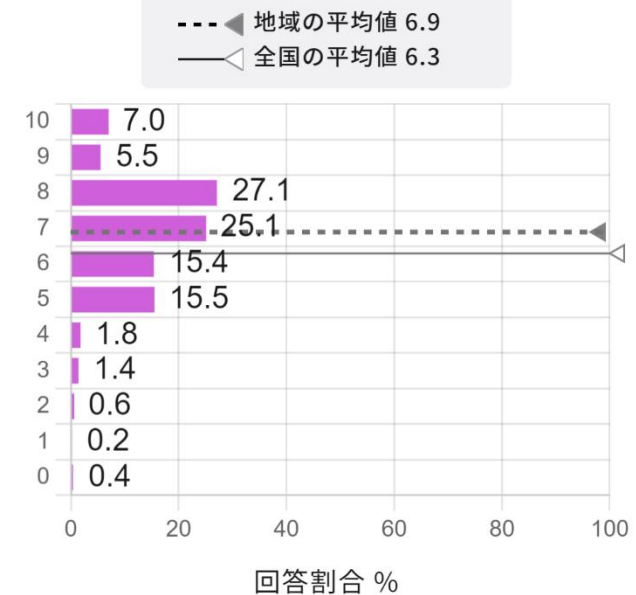
町内の幸福度



【出典】2025年度版(令和7年度版) Well-Being 全国調査

ファミリー世帯（n=1,404）

町内の幸福度



【出典】2025年度版(令和7年度版) Well-Being 個別調査

生活満足度

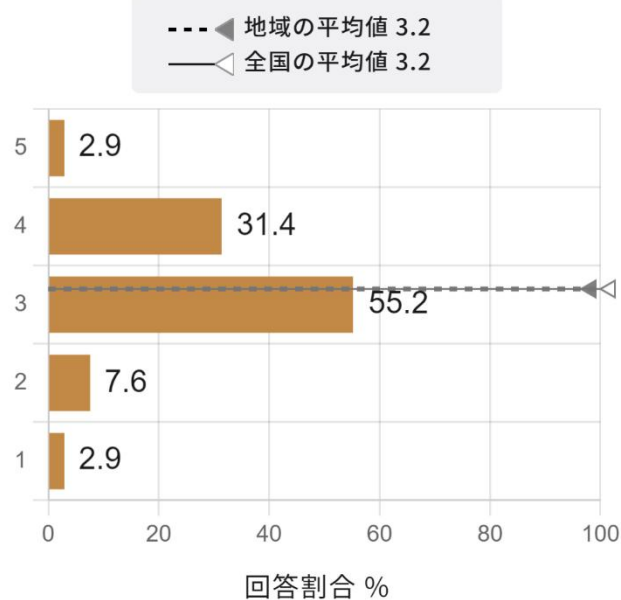
- ①「ファミリー世帯」の幸福度が高い(全国 6.3, ファミリー 6.9)
- ②「全年代」の幸福度は全国平均と変わらない

尼崎市の幸福度（全年代・ファミリー世帯）

周りも楽しい

全年代（n=105）

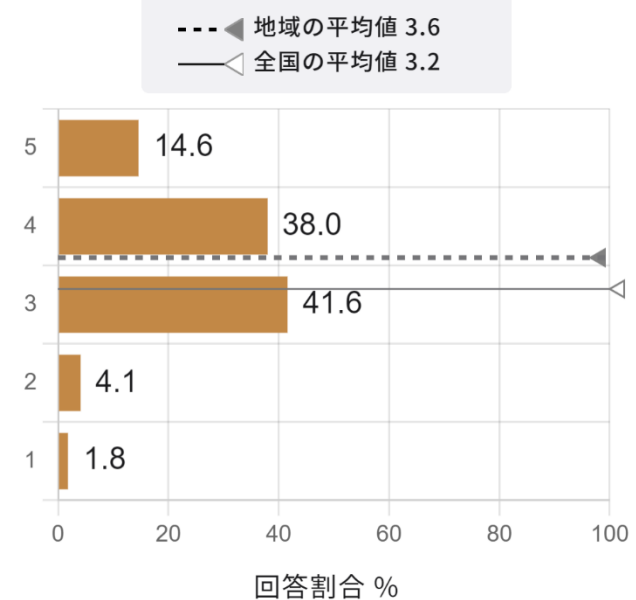
周りも楽しい



【出典】2025年度版(令和7年度版) Well-Being 全国調査

ファミリー世帯（n=1,404）

周りも楽しい



【出典】2025年度版(令和7年度版) Well-Being 個別調査

生活満足度

- ①「ファミリー世帯」の幸福度が高い(全国 3.2, ファミリー 3.6)
- ②「全年代」の幸福度は全国平均と変わらない